

平成29年度事業報告書

社会福祉法人 緑友会

平成30年5月20日 監事監査済
平成30年5月29日 理事会承認版
平成30年6月19日 評議員会承認版

目 次

法人本部	3
役員会（理事会・評議員会）	3-4
法人運営状況	4-6
役員 特記事項 要件	4-6
職員入退職	6
職員配置状況	7
職員研修（1 外部研修）	8-10
職員研修（2 法人研修）	10
職員研修（3 特養内部研修）	10-13
職員研修（4 ヘルパー内部研修）	14
職員研修（5 研修委員会 総評報告）	15-17
防災訓練	18
小川ホーム	19-34
1. 入所者の状況	19-22
2. 処遇の状況	23-29
3. 研修生・ボランティアの受け入れと地域福祉	29
4. 各係	30-31
5. 栄養・給食関係	31-34
短期入所生活介護	35
小川ホームデイサービスセンター	36-39
1. 月別実績	36-37
2. 要介護度・年齢別利用者数	37-38
3. 移動方法別利用者数	38
4. 地域別利用者数	38-39
5. 行事	39
小川ホームホームヘルプサービス	40-42
小川ホーム介護計画センター	43-44
地域包括支援センター小川ホーム	45-50
1. 月別実績	47
2. 要介護度分類	47
3. 相談実績	47

法人本部

○役員会

法人及び各事業運営についての諸議案が審議、決議された。

回数	開催日	出席状況	主な議題（概要）
86	理事会 平成29年5月 26日(金曜日) 17時15分～	理事6名 監事2名	第1号議案 平成28年度 事業報告書(案) 第2号議案 平成28年度 計算書類(貸借対照表及び収支計算書、及び付属明細書)及び財産目録(案) 第3号議案 補助金及び高額な取引に関する承認案 第4号議案 本決算における積立金、積立資産に関する案 ①施設・設備整備積立 ②大規模改修に係る積立金の区分間振替(清算) ③空調設備改修積立残額移行 ④その他の設備改修積立残額移行 ⑤職員処遇積立 第5号議案 福祉充実残額(マイナス)の確認 第6号議案 平成28年度事業に関する監事監査報告 資産証明額・資産登記の確認案 第7号議案 処遇改善加算の取得変更について 第8号議案 評議員会開催についての決議(定款12条、施行細則6条による定め) 第9号議案 評議員会に対する次任期理事会役員候補者の提案の確認(改正社会福祉法による新任期)
14	評議員会 平成29年6月 16日(金曜日) 15時00分～	評議員7名 理事2名 監事2名	第1号議案 議長の互選について 第2号議案 議事録署名人選出について 第3号議案 理事及び監事の報酬等の額の決定 第4号議案 理事及び監事に対する報酬等の支給の基準の決定 第5号議案 評議員の報酬等の額の決定 第6号議案 評議員に対する報酬等の支給の基準の決定 第7号議案 平成28年度 事業報告書の報告 第8号議案 平成28年度 計算書類(貸借対照表及び収支計算書、及び付属明細書)及び財産目録(承認案) 第9号議案 補助金及び高額な取引に関する報告 第10号議案 本決算における積立金、積立資産に関する報告 ①施設・設備整備積立 ②大規模改修に係る積立金の区分間振替(清算) ③空調設備改修積立残額移行 ④その他の設備改修積立残額移行 ⑤職員処遇積立 第11号議案 福祉充実残額(マイナス)の報告 第12号議案 平成28年度事業に関する監事監査報告 資産証明額・資産登記の承認案 第13号議案 定款第十三条3項に基づく理事・監事の選任決議(改正社会福祉法による新任期) 理事 菅野徹夫氏 市東和子氏 関谷榮子氏 高木好男氏 白石欣彦氏 増田英男氏 監事 基太村壽三郎氏 森杉美保氏
87	平成29年6月 16日(金曜日) 17時15分～	理事5名 監事2名 理事欠席 1名	第1号議案 本会議の議長の互選 第2号議案 議事録署名人の確認 第3号議案 理事長の選定 第4号議案 業務執行理事の設置の可否の決議 及び 業務執行理事の選定 第5号議案 職員処遇積立資産の取崩に関する承認
88	平成30年1月 19日(金曜日) 17時15分～	理事6名 監事2名	第1号議案 補助金交付決定及び高額な出納について(承認案) 第2号議案 平成29年度第一回補正予算案 第3号議案 平成30年度業務委託指名競争入札実施に関する案 給食サービス提供業務委託契約 洗浄業務付き寝具類の賃貸借契約 建築設備年間保守管理契約 第4号議案 人事制度再構築支援に関するコンサルティング契約について 第5号議案 経理規程の改定について 第6号議案 就業規則等の改定について 第7号議案 ベトナム留学生受け入れの対策 その他の議案 評議員会の開催の可否及び今後の会議日程の確認について

89	平成30年3月 27日(火曜日) 17時15分～	理事6名 監事2名	第1号議案 第2号議案 第3号議案 第4号議案 第5号議案 第6号議案 第7号議案 第8号議案 第9号議案	補助金交付決定及び高額な出納について(承認案) 平成30年度業務委託指名競争入札の実施報告・ 契約に関する案 平成30年度 事業計画書(案) 平成30年度 収支予算(社会福祉法人新会計 基準による)(案) 就業規則の改定案 非常勤就業規則・訪問介護員 業務規程(再) 運営規程の変更案 通所介護・訪問介護・地域 包括支援センター 資格手当の変更案 介護福祉士・介護支援専門員 定款施行細則 第6表 文書保存年限表改定案 職員衛生管理規定案
----	--------------------------------	--------------	---	---

○法人

平成28年度中から始まった社会構造改革において「社会福祉法の一部を変える法律(改正社会福祉法)」により、理事会承認と行政庁への申請の手順を踏んで定款を変更し、定款施行細則等の関連規則を改定している。

○評議委員

平成29年2月19日開催の評議員選任解任委員会によって以下の評議員7名各氏が選任され就任した。

任期は平成29年4月1日から平成32年度決算に関する、平成33年6月に開催予定の定時評議員会の終結の時までの、概ね4年間である。

評議員 赤木 真 出竿章雄 栗田正夫 澤田尚敏 田中信明 土川洋子 檜山則明

○理事・監事

前述の改新された定款に基づき、平成29年6月16日に評議員会を開催し、以下の通り新しい期の理事、監事各氏の選任決議がされた。その後同日の就任した理事、監事からなる理事会で、理事長と業務執行理事が選定され就任した。

任期は平成29年6月16日から平成30年度事業に関する、平成31年6月に開催予定の定時評議員会の終結の時までの、概ね2年間である。

理事長 菅野徹夫
業務執行理事 白石欣彦
理 事 市東和子 関谷栄子 高木好男 増田英男
監 事 基太村壽三郎 森杉美保(新任)
兒島富士男(退任)

○介護保険改正、介護予防・日常生活支援総合事業、行政庁移管

全国的に総合事業への移行がスタートしており、小平市では平成28年3月1日から制度が導入されて以降、通所及び訪問介護において「みなしサービス」を行っていたが、平成30年度から地域行政に移管の上行う制度に変更されることとなった。旧国基準への切り替え、緩和基準の開設準備のために、福祉保健局、福祉保健財団、小平市、東大和市、東村山市への多種多様な申請が必要となった。また、介護保険改正と相俟って全事業において、運営規程、利用者契約書関連、加算申請などの業務が集中し、繁忙を極めた。地域包括支援センターの総合事業のプラン料申請は複雑であったが、平成29年4月から(株)ワイズマンの介護請求システムデータが併用できるようになり、手数が緩和された。

○実地指導

実施なし

○福祉サービスの第三者評価の受審

平成29年8月1日から10月16日にかけて、入所者への聴き取り調査、職員及び管理者への分析シート調査等を実施した。調査機関は協同組合建設経営センターで、介護サービス情報同様に東京都福祉サービス評価推進機構のホームページに掲載され公表されている。

○協力医療機関と嘱託医師

平成29年度は、協力医療機関として以下のとおり来訪により診療等を実施した。

南台病院 内科 下山克也医師	小川クリニック 内科 小川哲史医師
あきやま子どもクリニック 内科 後藤雄一医師	
小平仲町クリニック 精神科 伊藤敬雄医師	
島田療育センターはちおうじ 整形外科 菅野徹夫医師	
パール歯科 歯科 輪番担当医	南台病院 産業医 山田克浩医師

○インフルエンザ・ノロウイルス等の感染対策

インフルエンザの流行に備え、特養利用者及び職員全員を対象に南台病院に委託し、11月22日、29日、12月6日の3日間に下山医師の来訪時に予防接種を行った。また特養食堂に大型業務用空気清浄器2台と、全館で大容量加湿器13台を配置し感染予防を行った。しかしながら29年12月以降時期を違えて、職員8名と入所と通所の利用者10名に主にB型感染が発生した。

またノロウイルス対策として、一年を通しリバルス希釈液他による噴霧・拭き上げの感染予防策の実施を行ってきた結果、発生を抑えることができている。

○介護人材不足と外国人留学生制度

介護人材が全国的に不足する中で、インターネット求人媒体を使い、通年で何らかの募集を行っているが、応募から就業に至ることは希少となっている。将来に備える意味で、NPO法人ひとりとみんなと連携を行い、施設長・副施設長が現地面談に出向き、平成30年度に一名のベトナム人留学生を受け入れ、学業の合間に非常勤就業を行う仕組みづくりをした。

○訪問時の安全性と機動力の拡大

衛生委員会での審議等を経て、働きやすい職場づくりと活動力のある訪問事業の充実のため、アシスト自転車を2台追加導入し6台の保有となった。

地域包括支援センターの訪問件数の増加に伴い、開設以来の訪問車両カラーIIを廃車し、安全機能を多数搭載したダイハツタントを平成30年3月14日に購入した。

○防犯カメラ及び防犯警備システムの運用

平成29年2月に㈱セコムに委託施工した、防犯カメラと緊急通報システムを本格的に運用し安全性は高まっている中で、有事の駆け付け警備は幸い発生していない。

○エレベータマジカルテンキーの施行

標記のシステムを2階に導入し、認知症利用者が屋外に迷い出ることの無いよう、予防策を行った。

○地域高齢者の居場所づくり

おれんじカフェ、サロンみんなのおがわを気持ちよく楽しみに利用して頂くため、会議

室のプロジェクター設置、照明具更新、委託清掃、ソファ更新を実施した。

○ICT化と情報管理

ICT化の一策としてパソコンの更新、プリンターとNASサーバーのメンテナンス、3月サービス分国保連請求からインターネットへの切り替え、電話回線の整備等を行った。また小平市の条例等に基づき、サービス提供に係る記録年限が2年から5年になり、保管量増加のため文書ロッカーを6基導入した。

○改修と更新

経年劣化のある建物と機器材の更新では、調理保管庫、介護ベッド、職員室空調修理、上下水配管、防火機構の必要性の高い部門から行った。

○ボランティア

平成29年9月に例年通りボランティア感謝会を実施し意見交換を行った。またボランティア用1台を含め給茶機3台の更新を行った。

○働き方改革と人事考課

法制度の変化にマッチした規程づくりのため、社労士に依頼し就業規則類を更新した。また、りそな総研と契約し人事評価のシステムを平成30年5月までの予定で改新している。

法人職員人事（異動・昇格）

デイサービスセンター主任	後任なし	H29. 5. 31 異動：大野友紀
前任なし	地域包括支援センター ケアマネジャー	H29. 6. 1 異動：大野友紀
生活健康課生活係	後任は新入職員	H29. 1. 31 異動：橋 達之
前任なし	デイサービスセンター	H29. 2. 1 異動：橋 達之

職員入退職（常勤職員）

職 種	配置	入職者	日付	職 種	配置	退職者	日付
介護職員	特養	有岡広子	H29. 4. 1	該当なし			
介護職員	通所	崎原智子	H29. 4. 1				
介護職員	特養	嶋田 寛	H30. 1. 1				
介護職員	特養	大里浩一	H30. 1. 1				

職員配置状況

平成30年3月31日現在

職 種	介護老人福祉施設 (短期入所を含む)		通所介護		訪問介護	
	基準	定員	基準	定員	基準	定員
施設長	1	1 [内兼務1]				
事務員		2 [内兼務1]				
看護職員	3	4 [内兼務1]	1 (1)	(3) [内兼務2]		
相談員	1	1	1 (1)	5 (2) [内兼務 4 (2)]		
介護職員	24	24 (17)	6	4 (13) [内兼務 3 (2)]		
ヘルパー					9	4 (19)
介護支援専門員	1	[兼務 4]				
管理栄養士	1	1				
医師	必要数	(4)				
精神科医師	(1)	(1)				
歯科医師(訪問)	(1)	(1)				
機能訓練指導員	1	1 [内兼務1] (1)	1	1 (2) [内兼務1 (2)]		
ライフワーカー		(8)				
業務員		(4)				
警務員		(6)				
専従運転士				(2)		
計	32 (3)	34 (42) [兼務6]	9 (2)	10 (22) [内兼務8 (8)]	9	4 (19)

職 種	居宅介護支援		地域包括支援	
	基準	定員	基準	定員
事務員			(1)	1
看護職員			1 (1)	1 (1)
相談員			2	2
介護職員				
ヘルパー				
介護支援専門員	6	5 (3) [他兼務1]	4 (3)	4 (3)
管理栄養士				
医師				
精神科医師				
機能訓練指導員				
業務員				
計	6	5 (3) [他兼務1]	7 (5)	8 (4)

※ () は非常勤職員

※基準は介護保険法に照らし、同時に当サービスの利用者数の現況を満たすだけの必要人員を表現している。

※計は単純に表を合計しているため、実人の計とは一致しない場合がある。

職員研修

(1) 外部研修

研修内容	研修主催者	研修者	研修日 (1日目)	その他 (2日目以降)
小平市在宅ケアコラボ 研修 薬と介護	小平アットホームケアサ ービス	大橋慧媛 池田まゆ美	H29. 5. 20	
精神科領域の疾病の理 解	東京都立多摩総合精神保 健福祉センター	横山真希	H29. 6. 30	
東京都介護支援専門員 研修課程Ⅰ	総合健康推進財団	塩野谷誠・木上利恵子	H29. 6. 4	～9. 22 全10日間
多職種連携研修会 認知症の基本的理解	小平市在宅医療介護連携 推進協議会	佐藤実	H29. 6. 10	
介護認定調査員研修会	小平市高齢者支援課	佐藤実	H29. 6. 14	
認知症ケアに関する 研修会(基礎編)	東京都社会福祉協議会	崎原智子	H29. 7. 11	
リハビリ視点からのケ アマネジメント	小平市地域包括支援セン ター中央センター	佐藤実・大野友紀	H29. 7. 12	
介護予防・日常生活支 援総合事業従事者向け 介護予防研修	東京都健康長寿医療セン ター研究所	永畑加代子・中野香美	H29. 7. 12	～H30. 2. 6 全5日間
小平市主任介護支援専 門員連絡会 学習会	小平市	上田典子・佐藤実	H29. 7. 14	H29. 8. 7 H29. 9. 13
一般開業医の行う在宅 医療	ひまわり在宅ネットワー ク	大橋慧媛・平間亜矢子	H29. 7. 19	
生活支援コーディネー ター養成研修	東京都福祉保健財団	永畑加代子	H29. 7. 19	7. 20
排泄ケア研修	リフレ(リブドゥコーポ レーション)	板井雅俊	H29. 7. 20	
小平ケアネット連絡会 ケアマネの原点回帰	小平ケアマネ連絡会	佐藤実	H29. 7. 20	
東京都地域包括支援セ ンター職員研修(初任 者研修)	東京都福祉保健財団	塩野谷誠	H29. 7. 20	7. 21
東京都介護支援専門員 専門研修課程Ⅱ	東京都介護支援専門員研 究協議会	宮永桃子	H29. 7. 20	～9. 26 全5日間
自立支援に資するケア プラン作成をしよう	小平市ケアプラン研修	上田典子・平間亜矢子・ 佐藤実・池田まゆ美・ 大橋慧媛・加藤桂子・ 宮永桃子・山岸栄子	H29. 7. 24	
社会福祉事業従事者人 権研修Ⅰ	東京都福祉保健局	石原裕介	H29. 7. 27	
尊厳の保持と自立支援	東京都社会福祉士会	中野香美	H29. 8. 19	
東京都介護支援専門員 研修	東京都福祉保健財団	大野友紀	H29. 9. 5	～11. 1 全6日間
セルフ・ネグレクト問 題への対応	小平市地域包括支援セン ター中央センター	佐藤実・加藤桂子・ 平間亜矢子・大橋慧媛・ 宮永桃子・山岸栄子	H29. 9. 12	
リハビリと介護	小平アットホーム	佐藤実・大橋慧媛	H29. 9. 15	
ケアプランの根拠だて	小平ケアマネ連絡会	佐藤実	H29. 9. 21	
口腔ケア重要性とその ポイント	小平アットホームケア	上田典子	H29. 10. 11	
神経難病講演会	東京都多摩小平保健所	横山真希	H29. 10. 11	
社会福祉法人経営力強 化事業・法人制度改革 対応研修会	東京都社会福祉協議会	長嶋弘樹	H29. 10. 11	
リ・アセスメント支援 シートを活用しての自 己点検と振り返り作業	小平市ケアプラン研修	平間亜矢子・山岸栄子	H29. 10. 13	11. 17 11. 18
先進事例に学ぶ 生活支援と住民の力	白梅学園大学 小平学・ まちづくり研究会	永畑加代子・中野香美	H29. 10. 14	
難病セミナー	東京都福祉保健局	横山真希	H29. 10. 17	

平成29年度第15回評議員会承認済版

災害が発生したら・その時何をすべきか	東京都社会福祉協議会(燕三条)	小林美穂	H29.10.19	H29.10.20
利用者に心地よい介護技術	かながわ福祉サービス振興会	池高真一	H29.10.20	
労働基準法に関する基礎研修会	東京都社会福祉協議会	高橋直樹	H29.10.25	
身体拘束廃止・外鍵事例への対応	東京都福祉保健財団	野本琢也	H30.1.16	
気道ケアと口腔リハビリテーションのポイント	東京都多摩小平保健所	横山真希	H29.11.13	
身体にやさしい古武術介護	朝日カルチャーセンター	池高真一	H29.11.14	
ケアプランの根拠だて	小平ケアマネ連絡会	佐藤実	H29.11.16	
超高齢者時代の糖尿病診療	北多摩北部保健医療圏糖尿病ネットワーク委員会	平間亜矢子	H29.11.16	
在宅介護者における結核対策	東京都結核予防会	横山真希	H29.11.17	
相談援助職の記録の書き方	東京都介護支援専門員研究協議会	大橋慧媛	H29.11.29	
高齢者の難聴について学ぶ	小平市ケアプラン研修	大橋慧媛・加藤桂子・山岸栄子・松田弥生	H29.11.30	
医療連携 基本のき!	東京都福祉保健財団	加藤桂子	H29.12.7	
BPSDのある認知症の方と家族をどう支えるか	小平市	高橋利枝	H29.12.9	
我が町再発見!地域診断についてお困りではありませんか	東京都社会福祉協議会	中野香美	H29.12.11	
東京都介護支援専門員専門研修課程Ⅱ	東京都介護支援専門員研究協議会	塩野谷誠・木上利恵子・松田弥生・平間亜矢子	H29.12.27	H30.3.2 全6日間
東京都介護支援専門員専門研修課程Ⅱ	東京都介護支援専門員研究協議会	高橋利枝	H30.1.7	H30.3.11 全6日間
東京都地域包括支援センター職員現任研修	東京都福祉保健財団	野本琢也	H30.1.11	1.12
病院における多職種連携研修会	小平市在宅医療介護連携推進協議会	佐藤実	H30.1.16	
キャラバンメイト	東京都キャラバンメイト	大野友紀	H30.1.26	
住み慣れた家で地域で最期まで暮らし続ける	東京都福祉保健局株式会社トライ	大橋慧媛	H30.2.1	
多職種連携研修会 独居認知症女性のケース対応について	小平市在宅医療介護連携推進協議会	佐藤実・野本琢也・大野友紀	H30.2.3	
人生の最終段階をどう迎えますか	白梅大学 小平学・まちづくり研究所	永畑加代子	H30.2.17	
介護報酬請求事務に関する研修会(応用編)	東京都社会福祉協議会	長嶋弘樹	H30.2.21	
成年後見基礎講座 成年後見人等の実務	小平市社会福祉協議会	大野友紀	H30.2.22	
苦手を得意に変える!! 高次脳機能障がい者の支援	小平市障がい者支援課 小平市高次脳機能障がい者支援担当者連絡会	横山真希・永畑加代子・佐藤実・大橋慧媛・宮永桃子	H30.3.7	
薬とADLの関係性	小平市在宅医療介護連携推進協議会	上田典子	H30.3.10	
精神疾患のある方への対応	小平市ケアプラン研修	佐藤実・池田まゆ美・大橋慧媛・加藤桂子・山岸栄子・横山真希	H30.3.12	
認知症の基礎知識とその対応方法を学ぶ	小平市健康福祉部	上田典子	H30.3.15	
あんしん居住制度	小平市社会福祉協議会	宮永桃子	H30.3.15	
統合ケアマネジメント事例検討会	オレンジクロス	佐藤実	H30.2.6	

(2) 法人研修

研修内容	講師	研修者	研修日
腰痛ヘルスケア	加藤希	野本琢也・大野友紀・野澤喜美子・高橋利枝・平間亜矢子・田代武二・佐々木先子・野島邦義・池高真一・杉本百合子	H29. 6. 21
～施設現場における認知症ケア～ 認知症ケア行動心理障害（BPSD）の理解と対応	鷹部屋宏平	宮崎由貴・野澤喜美子・坂田しのぶ・上條悦子・齋藤与志子・豊嶋尚美・高原好子・広田祐子・原本敦子・加藤満子・柏木あけみ・中村敏子・鈴木今日子・吉海康子・増田いづみ・丸山朗美・加藤ななゑ・森本由紀子・松井清美・王影欣・羽根ルミ子・崎原智子・長嶋弘樹・永畑加代子・山岸栄子・上田典子・大橋慧媛・池田まゆ美・加藤桂子・佐藤実・平間亜矢子・宮永桃子・松田弥生・野本琢也・横山真希・中野香美・大野友紀・出井かおり・塩野谷誠・小林美穂・村山大輔・高橋利枝・鎌田英子・比嘉英美・齋藤美佐・古川千鶴子・菅洋子・塩崎佳子・半谷三千代・矢村恵美・野島邦義・有岡広子・小宮山恵子・菊池孝明・板井雅俊・武藤光仁・池高真一	H29. 8. 8 H29. 9. 12
相互交換研修	在宅サービス各事業職員	相原和典	H29. 10. 26 H29. 11. 16
精神疾患の人の対応と薬の知識について	土川洋子	広田祐子・横山真希・木上利恵子・出井かおり・鈴木今日子・池田まゆ美・大橋慧媛・大野友紀・森本由紀子・永畑加代子・吉海康子・松井清美・羽根ルミ子・宮崎由貴・齋藤与志子・高原好子・坂田しのぶ・加藤満子・上條悦子・豊嶋尚美・原本敦子・増田いづみ・柏木あけみ・王影欣・加藤ななゑ・中村敏子・野本琢也・塩野谷誠・加藤希・佐藤実・上田典子・平間亜矢子・岡田祐子・有岡広子・古川千鶴子・山崎理恵・板井雅俊・菅洋子・武藤光仁・塩崎佳子・小宮山恵子・相原和典・高橋利枝・野島邦義	H29. 10. 17 H29. 11. 28

(3) 特養内部研修

研修内容	講師	研修者	研修日
事故発生時の記録と報告書について (事故予防研修①)	田倉巳幸 鎌田英子 高塚義久 古川千鶴子	吉川夏・翁長留美子・大滝晴美・進藤麻帆・森田淳子・中村早苗・鈴木由美子・半谷三千代・加納希望・菅洋子・浅井知子・久住真理・石井和代・篠崎有華・半谷千恵子・有岡広子・甲さつき・阿部稜・杉本百合子・佐藤栄子・山崎理恵・比嘉英美・恩田諭・川野美紀・武藤光仁・村山大輔・菊池孝明・相原和典・齋藤美佐・井澤優子・塩崎佳子・板井雅俊・一條裕・岡田祐子・小宮山恵子・石原裕介・矢村恵美・池沢美幸・橋達之	H29. 4. 9～ 全 12 日間

<p>事故対策～徘徊センサー事故対策～</p>	<p>田倉巳幸</p>	<p>翁長留美子・大滝晴美・進藤麻帆・石原裕介・森田淳子・中村早苗・鈴木由美子・菅洋子・加納希望・半谷三千代・浅井知子・久住真理・石井和代・篠崎有華・半谷千恵子・相原和典・有岡広子・甲さつき・阿部稜・杉本百合子・板井雅俊・橋達之・齋藤美佐・池沢美幸・村山大輔・佐藤栄子・山崎理恵・小宮山恵子・一條裕・井澤優子・塩崎佳子・岡田祐子・比嘉英美・武藤光仁・菊池孝明・川野美紀・矢村恵美・恩田諭</p>	<p>H29. 4. 9～ 全9日間</p>
<p>利用者急変時の対応 (夜間緊急対応)</p>	<p>野島邦義</p>	<p>鎌田英子・田倉巳幸・高塚義久・古川千鶴子・石原裕介・村山大輔・山田芽美・川野美紀・武藤光仁・相原和典・菊池孝明・池沢美幸・橋達之・一條裕・進藤麻帆・井澤優子・恩田諭・板井雅俊・齋藤美佐・岡田祐子・有岡広子・杉本百合子・矢村恵美・塩崎佳子・小宮山恵子</p>	<p>H29. 4. 28 H29. 5. 1 H29. 5. 2 H29. 5. 4</p>
<p>食中毒の防止 (感染予防①)</p>	<p>杉本百合子</p>	<p>井澤優子・矢村恵美・有岡広子・進藤麻帆・菊池孝明・板井雅俊・村山大輔・鎌田英子・田倉巳幸・齋藤美佐・高塚義久・相原和典・山田芽美・古川千鶴子・岡田祐子・武藤光仁・橋達之・池沢美幸・塩崎佳子・恩田諭・一條裕・石原裕介・小宮山恵子</p>	<p>H29. 5. 20 H29. 5. 31 H29. 6. 6</p>
<p>口腔内吸引と鼻腔内吸引の基礎知識 (喀痰吸引①)</p>	<p>矢村恵美 塩崎佳子</p>	<p>進藤麻帆・菊池孝明・杉本百合子・石原裕介・相原和典・板井雅俊・池沢美幸・橋達之・恩田諭・村山大輔・有岡広子・井澤優子・古川千鶴子・川野美紀・山田芽美・小宮山恵子・齋藤美佐・武藤光仁・田倉巳幸・鎌田英子・高塚義久・一條裕・岡田祐子</p>	<p>H29. 5. 26 H29. 5. 30 H29. 6. 3</p>
<p>認知症・高齢者の食事 (食事ケア)</p>	<p>川野美紀</p>	<p>篠崎有華・鈴木由美子・相原和典・高塚義久・風間元温・板井雅俊・石原裕介・石井和代・齋藤美鈴・阿部稜・半谷三千代・半谷千恵子・大滝晴美・田倉巳幸・一條裕・齋藤美佐・矢村恵美・塩崎佳子・杉本百合子・池沢美幸・岡田祐子・橋達之・菊池孝明・比嘉英美・野島邦義・武藤光仁・進藤麻帆・小宮山恵子・有岡広子・古川千鶴子・山崎理恵・加納希望・村山大輔・山田芽美・浅井知子・甲さつき・久住真理・中村早苗・井澤優子・鎌田英子・菅洋子・恩田諭・高橋利枝・森田淳子</p>	<p>H29. 6. 7 H29. 6. 14 H29. 6. 22 H29. 6. 24 H29. 6. 25</p>
<p>高齢者虐待を予防するために自己のストレスを知ろう (虐待防止①)</p>	<p>鎌田英子</p>	<p>田倉巳幸・高塚義久・古川千鶴子・翁長留美子・石原裕介・村山大輔・山田芽美・川野美紀・武藤光仁・相原和典・菊池孝明・池沢美幸・橋達之・一條裕・進藤麻帆・井澤優子・恩田諭・板井雅俊・齋藤美佐・岡田祐子・有岡広子・杉本百合子・矢村恵美・塩崎佳子・小宮山恵子・中村早苗・甲さつき・石井和代・加納希望・鈴木由美子・久住真理・阿部稜・大滝晴美・半谷三千代・半谷千恵子・山崎理恵・菅洋子・浅井知子・山田直美・篠崎有華・比嘉英美</p>	<p>H29. 7. 28 H29. 7. 29 H30. 7. 30 H29. 8. 2 H29. 8. 3</p>

<p>入浴介助の基本と 安全な入浴 (入浴ケア)</p>	<p>相原和典 橋達之 岡田祐子</p>	<p>田倉巳幸・池沢美幸・鎌田英子・鈴木由美子・ 久住真理・中村早苗・加納希望・齋藤美佐・ 武藤光仁・恩田諭・阿部稜・甲さつき・一條裕・ 菊池孝明・川野美紀・板井雅俊・高橋利枝・ 高塚義久・有岡広子・古川千鶴子・大滝晴美・ 進藤麻帆・村山大輔・井澤優子・石原裕介・ 山田芽美・半谷千恵子・森田淳子・浅井知子・ 山崎理恵・篠崎有華・半谷三千代・比嘉英美・ 菅洋子・石井和代</p>	<p>H29. 7. 16 H29. 7. 26 H29. 7. 24 H29. 7. 25 H29. 7. 26 H29. 7. 29 H29. 8. 2</p>
<p>ショートステイへ の理解を深めよう (短期入所生活介護)</p>	<p>高橋利枝</p>	<p>鎌田英子・相馬千春・中村早苗・篠崎有華・ 甲さつき・鈴木由美子・菅洋子・翁長留美子・ 阿部稜・大滝晴美・加納希望・石原裕介・ 浅井知子・上野絵美里・杉本百合子・武藤光仁・ 山崎理恵・矢村恵美・半谷三千代・村山大輔・ 堀内洋子・小林清子・相宗ゆきえ・糟谷裕子・ 川野美紀・久住真理・石井和代・山田芽美・ 有岡広子・岡田祐子・相原和典・板井雅俊・ 橋達之・古川千鶴子・塩崎佳子・菊池孝明・ 比嘉英美・小宮山恵子・齋藤美佐・井澤優子・ 一條裕</p>	<p>H29. 9. 15 H29. 9. 26</p>
<p>見守り・危険予測 (事故予防②)</p>	<p>田倉巳幸</p>	<p>鎌田英子・古川千鶴子・高橋利枝・南山妙子 石原裕介・村山大輔・川野美紀・相原和典・ 菊池孝明・池沢美幸・橋達之・一條裕・ 進藤麻帆・井澤優子・恩田諭・齋藤美佐・ 岡田祐子・有岡広子・杉本百合子・矢村恵美・ 塩崎佳子・小宮山恵子・中村早苗・甲さつき・ 石井和代・加納希望・鈴木由美子・久住真理・ 阿部稜・大滝晴美・半谷三千代・半谷千恵子・ 山崎理恵・菅洋子・浅井知子・山田直美・ 篠崎有華・比嘉英美・翁長留美子・森田淳子</p>	<p>H29. 10. 4 H29. 10. 18 H29. 10. 19 H29. 10. 27 H29. 11. 4 H29. 11. 5 H29. 11. 7 H29. 12. 15</p>
<p>排泄介助の基本 (排泄ケア①)</p>	<p>山田芽美 武藤光仁 板井雅俊</p>	<p>高塚義久・古川千鶴子・高橋利枝・南山妙子 石原裕介・村山大輔・川野美紀・相原和典・ 菊池孝明・池沢美幸・橋達之・一條裕・ 進藤麻帆・井澤優子・恩田諭・齋藤美佐・ 岡田祐子・有岡広子・杉本百合子・矢村恵美・ 塩崎佳子・小宮山恵子・中村早苗・甲さつき・ 石井和代・加納希望・鈴木由美子・久住真理・ 阿部稜・大滝晴美・半谷三千代・半谷千恵子・ 山崎理恵・菅洋子・浅井知子・山田直美・ 篠崎有華・比嘉英美・田倉巳幸・鎌田英子</p>	<p>H29. 10. 21 H29. 10. 24 H29. 10. 26 H29. 11. 1</p>
<p>褥瘡予防を考えた スキンケアの実践 (褥瘡予防)</p>	<p>野呂千鶴様 (リフレアド バイザー)</p>	<p>田倉巳幸・高塚義久・古川千鶴子・武藤光仁・ 相原和典・菊池孝明・池沢美幸・進藤麻帆・ 井澤優子・恩田諭・板井雅俊・齋藤美佐・ 岡田祐子・有岡広子・塩崎佳子・小宮山恵子・ 半谷三千代・篠崎有華・比嘉英美・南山妙子・ 鎌田英子</p>	<p>H29. 11. 1 H29. 11. 2 H29. 11. 21 H29. 11. 24</p>
<p>オムツの正しい当 て方 (排泄ケア②)</p>	<p>野呂千鶴様 (リフレアド バイザー)</p>	<p>南山妙子・菅洋子・恩田諭・田倉巳幸・ 塩崎佳子・井澤優子・相原和典・板井雅俊・ 小宮山恵子・村山大輔・篠崎有華・半谷三千代・ 齋藤美佐</p>	<p>H29. 11. 24 H29. 11. 27</p>

<p>ノロ・インフルエンザ予防 (感染予防②)</p>	<p>杉本百合子</p>	<p>南山妙子・板井雅俊・井澤優子・進藤麻帆・菊池孝明・岡田祐子・村山大輔・比嘉英美・鎌田英子・武藤光仁・橋達之・塩崎佳子・川野美紀・相原和典・野島邦義・齋藤美佐・一條裕・小宮山恵子・石原裕介・山田芽美・古川千鶴子</p>	<p>H29. 12. 1 H29. 12. 7 H29. 12. 14</p>
<p>認知症と歯の関係性 (認知症)</p>	<p>野島邦義</p>	<p>池澤美幸・石原裕介・小宮山恵子・杉本百合子・進藤麻帆・齋藤美佐・井澤優子・村山大輔・有岡広子・武藤光仁・塩崎佳子・古川千鶴子</p>	<p>H29. 12. 4 H29. 12. 5 H29. 12. 6</p>
<p>二人介助で移乗する方法について (介護事故予防③)</p>	<p>鎌田英子 田倉巳幸</p>	<p>石井和代・相原和典・半谷三千代・菅洋子・池沢美幸・南山妙子・恩田諭・篠崎有華・石原裕介・中村早苗・嶋田寛・森田淳子・山田芽美・齋藤美佐・井澤優子・菊池孝明・山崎理恵・甲さつき・村山大輔・岡田祐子・一條裕・進藤麻帆・有岡広子・川野美紀・板井雅俊・古川千鶴子・加納希望・武藤光仁・高塚義久・大里浩一</p>	<p>H30. 1. 30 H30. 2. 1 H30. 2. 4 H30. 2. 10 H30. 2. 11 H30. 2. 24</p>
<p>高齢者虐待防止法の「虐待」について (虐待防止②)</p>	<p>鎌田英子</p>	<p>田倉巳幸・高塚義久・古川千鶴子・石原裕介・村山大輔・山田芽美・川野美紀・武藤光仁・相原和典・菊池孝明・一條裕・進藤麻帆・井澤優子・岡田祐子・板井雅俊・齋藤美佐・恩田諭・有岡広子・南山妙子・大里浩一・嶋田寛・中村早苗・甲さつき・石井和代・鈴木由美子・久住真理・阿部稜・大滝晴美・佐藤あや子・半谷三千代・山崎理恵・菅洋子・篠崎有華・比嘉英美・森田淳子・半谷千恵子・杉本百合子・矢村恵美・塩崎佳子・小宮山恵子</p>	<p>H30. 2. 25 H30. 2. 26 H30. 3. 2 H30. 3. 9 H30. 3. 11</p>
<p>ケアプランについて (ケアプラン)</p>	<p>古川千鶴子 井澤優子</p>	<p>山崎理恵・浅井知子・久住真理・鈴木由美子・石井和代・甲さつき・篠崎有華・佐藤あや子・菅洋子・阿部稜・一條裕・恩田諭・森田淳子・大滝晴美・比嘉英美・中村早苗・加納希望・半谷三千代・小宮山恵子・杉本百合子・嶋田寛・塩崎佳子・矢村恵美・鎌田英子・田倉巳幸・高塚義久・相原和典・石原裕介・村山大輔・山田芽美・川野美紀・武藤光仁・菊池孝明・池沢美幸・進藤麻帆・岡田祐子・板井雅俊・有岡広子・南山妙子・齋藤美佐・大里浩一・翁長留美子</p>	<p>H30. 2. 8 H30. 2. 10 H30. 2. 11</p>
<p>利用者が安全に暮らせる環境整備を考えよう (事故予防④)</p>	<p>田倉巳幸</p>	<p>嶋田寛・大里浩一・南山妙子・有岡広子・齋藤美佐・恩田諭・板井雅俊・岡田祐子・井澤優子・進藤麻帆・池沢美幸・杉本百合子・菊池孝明・相原和典・武藤光仁・川野美紀・山田芽美・村山大輔・石原裕介・古川千鶴子・高塚義久・浅井知子・半谷三千代・山崎理恵・菅洋子・篠崎有華・比嘉英美・森田淳子・半谷千恵子・中村早苗・石井和代・甲さつき・大滝晴美・久住真理・阿部稜・鈴木由美子・佐藤あや子・小宮山恵子・矢村恵美・一條裕・塩崎佳子</p>	<p>H30. 3. 1～ 全8日間</p>

(4) ヘルパー内部研修

※サービス提供責任者が講師を務め、以下の研修会を開催しています。

※法人研修・外部研修は前記(1)(2)の表に記載しています。

年 月 日	H29年							H30年	
	4 25	5 30	6 27	8 8	9 12	10 12	12 7	2 13	3 13
研修テーマ	介護保険制度改定について	認知症についての理解と対応	フオロアツプについて	認知症ケア行動心理障害(BPSD)の理解と対応	認知症ケア行動心理障害(BPSD)の理解と対応	「東京都出前講座」見守り人材向け講座	介護保険制度改定(総合事業・介護報酬)	排泄介助(パッドの当て方)	雇用契約書・移動手当変更について
講師： サービス提供責任者	野澤喜美子	野澤喜美子	松井清美	鷹部屋宏平 (外部講師)	鷹部屋宏平 (外部講師)	池田和子 (外部講師)	野澤喜美子	野澤喜美子	松井清美
中村敏子	休	○	○	○	—	○	休	○	○
柏木あけみ	H	休	○	○	—	休	○	○	○
高原好子	H	○	休	○	—	休	H	○	休
広田裕子	休	○	○	○	—	○	H	○	○
原本敦子	○	○	休	○	—	○	休	○	○
齋藤与志子	○	○	○	○	—	○	○	○	
上條悦子	○	○	○	○	—	○	○	○	○
豊嶋尚美	○	○	○	○	—	○	○	○	○
増田いづみ	○	○	○	○	—	○	○	○	○
坂田しのぶ	○	○	○	○	—	○	○	○	○
鈴木今日子	○	○	○	○	—	○	○	○	○
廣田公雄	休	休	休	休	○	○	○	休	○
森本由紀子	○	○	○	—	○	○	○	○	○
丸山朗美	○	○	○	—	休	休	○	○	休
加藤満子	○	○	○	○	—	○	○	○	○
加藤ななゑ	○	休	休み	休	○	○	休	○	○
王影欣	休	○	○	—	○	○	○	休	休
松野智子 (11/1~)							休	休	休
吉田つや子 (11/1~)							休	休	休
野澤喜美子	○	○	○	○	—	○	○	○	○
松井清美	○	○	○	—	○	○	○	○	○
羽根ルミ子	○	○	○	—	○	○	○	○	○
宮崎由貴	○	○	○	○	—	○	○	○	○

(5) 研修委員会 総評報告

平成29年度

研修委員会 総評報告

《総括》

今年度の研修は研修課題の中で3つのテーマについて計5回の研修を行い、集中的に学ぶ機会を設けた。

●テーマ①「腰痛ケア」（痛みを緩和するセルフケアの方法）

これは、研修課題の4にあたる。施設、在宅問わず、職員の腰痛ケアは永遠のテーマとも言える。特に現場の職員は、直接介護であるので、身体は悲鳴を上げているのが現実としてある。

通常は、他動的に、整骨やマッサージ等で揉んでもらうなどのケアをしていくが、今回の研修は新しい考え方で、自身で行うケアである（押さない・揉まない・引っ張らない）でリンパの流れを良くして改善を図るものであった。

理論を学び実践していくこのテーマは、斬新で大変有効な腰痛ケアであったにも関わらず、参加者が10名と僅かであった。研修の広報の問題なのか、職員の意識が向いていないのか、数多くの職員が参加できなかったことは残念な結果となった。

良いものであるので、職員に意識づけを行い今後も研修として取り入れていきたい。

●テーマ②「認知症BPSD（行動心理症状）への対応」

これは、BPSDの特徴的な対応例を解説し、認知症ケアの実践計画を皆で考えるものであった。これは研修課題の1と2にあたる。特養から実際の事例を挙げてもらい、「○○○な行動・言動によって対応に困っているAさん」と言う形で事例を予め提出し対応の考え方を皆で考えた。事例検討会ではなく、あくまでも認知症ケア実践計画を皆で考えていく研修スタイルをとった。2回に分けて研修を行った事、実際の事例と言う事もあり、多くの職員の参加があり大変有効であった。

このテーマに関しては、繰り返し学んで行かないといけないテーマと考えている。パーソン・センタード・ケアの考え方で、5つの心理的ニーズのどの部分が欠けているのか、探しだしていく事が専門職である我々の役割であり、BPSDは利用者の声だという事を改めて気づいた職員もいたはずだと思う。職員の入れ替わりもあり、認知症ケア・高齢者の尊厳の内容は繰り返し学んでいく必要がある。

ともすると、虐待にも発展しかねない事態に陥る可能性は皆だれしも持っていて、職員に心の余裕のない状態で介護をしていることで発生してしまう。認知症の周辺症状により起こる本人の行動で、頻回に利用者が座る⇔立つ⇔職員がイライラする。これは他人事となのか、自分もそうなる可能性があるのではないか、認知症を分かっているにもかかわらず、きつい言動、対応をとってしまっていないか、常に考えていかななくてはならない事である。

●テーマ③「精神疾患への対応と薬の知識について」

これも、研修課題の1と2にリンクする。特養と言うより、在宅よりのテーマであった。疾患の特徴を知り、利用者の言動や行動の見極め方や精神薬の効果と副作用について、利用者はなぜ、薬を飲みたがらないのか、在宅での関わりのあるケースも事例として挙げて学ぶ機会を設けた。在宅のケースの場合、家族関係も含めてとても複雑に絡み合うので、対応方法として利用者に寄り添っていく事は、職員の認識として基本にあるものの、その後の対応や困難事例のヒントが学べるとさらに良かった。

研修課題とは本来、職員に対して「求められる能力」と「現有の能力」の差が、個人の研修すべき課題である。このことから研修課題はそれぞれの職員で異なる。

各個人の課題の集合体が、法人全体の課題になる。その中でも共有できる課題を研修課題として挙げてきたが施設と在宅においても大きな違いがあり、又在宅の中でも職種や業務内容が分かれているので一つのテーマとして研修していく事の難しさを近年感じている。極力、各部署にもまたがる内容で共通事項のテーマに絞り行なった。今後はチャレンジシートや各部署での研修（O-JTやOFF-JT）を更に進めていきたい。

今後も同一法人においての基本となる共通の考え方は持っていなければならないので、共通項目のテーマでの研修を30年度も行っていきたい。

【外部講師を招いたOFF-JT研修】

第一回 法人研修

テーマ：腰痛セルフケア

日 程：平成29年6月21日（水）

時 間：18時～20時

講 師：社会福祉法人 緑友会 デイサービスセンター主任 加藤 希

参加者：計10名

<実施報告>

介護者において腰痛は最も罹患しやすい疾患で、予防については労働衛生分野においても重要な課題となっている。当施設でも勤務前の軽体操やコルセット配布等、予防対策を講じているが、腰痛に悩まされている職員は少なくない。そのため本研修では、リンパの流れを改善することで身体の歪みを補整し、疼痛緩和更には腰痛予防に繋げるセルフケアの考え方を中心に具体的な手技を学ぶことができた。

講義では、講師の「（身体を）揉むという行為は、逆に症状を悪化させる」という言葉は、多くの職員が間違った認識をしていた。「揉む」ことは一時的な快楽だけで、根本が改善された訳ではない。大切なのは“筋肉を緩める”ために身体に「やさしくタッチする」ことである。実際、講義では8つのセルフケアを実践し、その効果と重要性に気付くことができた。

職員の身体の不調は介護の質に直接影響する。身体の健康は日頃のケアが極めて大切であることを改めて認識することができた研修であった。

第二回 法人研修

テーマ：施設現場における認知症ケア

～認知症ケア行動心理障害（BPSD）の理解と対応

～ストレスと上手に付き合うために～

日 程：平成29年8月 8日（火）

平成29年9月12日（火）

時 間：18時～20時

講 師：特別養護老人ホーム シャローム東久留米 副施設長

高齢者住宅サービスセンター シャローム南沢 センター長

東京都認知症介護指導者 鷹部屋 宏平 先生

参加者：計57名

＜実施報告＞

「その人らしさ」という言葉は、認知症ケアの根幹を成すパーソン・センタード・ケアの理念である。しかし施設ケアは、どうしても画一的なケアになりがちで、個別ケアが不十分になるケースがある。今回の研修では、認知症への対応だけではなく、人との関わりを支援するにあたって「その人を知る」ことの重要性を深く学ぶことがであった。

講義では、認知症の周辺症状と中核症状を中心に進められ、事例を通してグループワークでその人の理解を深めていった。社会福祉を提供する者は、その人を知ろうとアセスメントを通して情報を得ようとする。しかし、ある程度満足するとそこで知ろうとすることを止めてしまい、知ったつもりでケアが履行させてしまうことがある。講義の中で講師の「周辺症状は“声掛け”と“対応”で無くすことができる」「人は愛の上に立っている」という言葉は、今回の研修報告書をまとめるにあたり、多くの職員が自身の認知症ケアについて深く考えさせられたことが見て取れる。

認知症ケアには正解はない。すなわち、その人を知ることにも終わりが無いのである。我々は介護プロとして、利用者一人ひとりを今以上に“知る”必要があると考えさせられた研修であった。

第三回 法人研修

テーマ：精神疾患に人の対応と薬の知識について

日 程：平成29年10月17日（火）

平成29年11月28日（火）

時 間：18時～20時

講 師：白梅学園大学 土川 洋子 教授

参加者：計44名

＜実施報告＞

社会福祉を必要とする者が高齢になると、その多くが高齢福祉サービスの対象となる。それは精神疾患に罹患している人も同じく、高齢福祉サービスを提供する者は、実に多くの知識と技術が求められる。本研修では精神疾患の方への対応について、共感的姿勢の重要性を多くの職員が気付くことができた。

精神疾患に関する研究は、まだ発展途上であるが少しずつ進歩している。その人の内外的要因等様々な要素が複雑に混じり合い、困惑した状態として陽性症状や陰性症状に現われるが、その根本を改善するところまでは分かっていない。もちろん精神障害の人には薬物療法もあるが、これは緩和するだけの物である。

そのため我々が精神疾患を持つ方の支援をする上では、その行動に寄り添うことにある。その共感的姿勢が重要であるということを再認識する事ができた研修だった。

＜法人内 職員交流研修＞

【研修者】

- ・ 相原和典（施設職員）

【実施日】

平成29年10月26日・11月16日

※実施報告については、各職員研修報告書参照

＜他法人 交流研修＞

【研修者】

該当なし

(6) 防災訓練

実施日	訓練内容	参加者
<p>平成29年10月4日 14時20分 から 15時00分 まで</p>	<p>26平予第164号通達に基づく夜間想定総合訓練 ①特養では夜勤者しか居ない時間帯を想定し、初期消火を早期に行い、一方では近年認知症等で中重度介護を要する利用者の安全誘導、及び布製担架を用い平行移動の救護訓練を行った。今回は引き続き特に経験の浅い介護スタッフに重きを置き、避難誘導・防火設備取扱い・初期消火行動を訓練し、防火防災活動を日常から行えるように訓練を実施した。また、有事に備え確実に機材取扱いができる様、消火栓で実放水訓練を行った。②デイサービスにあっては日中を想定し、利用者の一斉誘導を行うとともに点呼の実施をした。施設センターは一階で避難しやすいが、転倒等の二次的にならないように配慮しながら平行移動の避難を実施した。</p>	<p>防火管理責任者 施設長 生活健康課長 を含む 施設職員 計29名 利用者(特養)10名 (デイ)24名</p>
<p>平成29年8月24日 9時00分 から 16時00分 まで</p>	<p>停電想定プロパンガス調理、発電訓練 ○天災により電位とガスが停止したことを想定し、夏祭りの準備時間にプロパンガス調理と仮設照明の設置点灯訓練を行った。</p>	<p>防火管理責任者 他10名</p>
<p>平成29年11月22日 9時00分 から 15時30分 まで</p>	<p>停電想定発電訓練 ○電気設備点検日に実際に外部電源の喪失の中で、発電機を運転し発電及び灯光、医療機器、電話交換主機への送電訓練を実施した。今回は人手の無い実情の中で、当日の午前中から配線、灯具・発電機の設置、新調したバッテリーライトを配置し準備を行った。</p>	<p>防火管理責任者 他3名</p>
<p>平成30年3月12日 14時00分 から 15時30分 まで</p>	<p>夜間想定総合訓練 ①特養では夜勤者しか居ない時間帯に地震発生の後出火したことを想定し、初期消火を早期に行い、一方では落下物・破損建具等の障害物を回避しながら、認知症等で中重度介護を要する利用者の安全誘導、及び仮設担架等を用い平行移動の避難訓練を実施した。特に経験の浅い介護職員に重きを置き、避難誘導・防火設備取扱い・初期消火行動を訓練し、災害時活動を日常から行えるように訓練を実施した。また、有事に備え確実に機材取扱いができる様、消火栓で実放水訓練を実施した。 ②デイサービスにあっては日中を想定し、利用者を介助しながら誘導と点呼の実施を実施した。センターは一階で避難しやすいが、転倒によるケガ等の二次的にならないように配慮しながら平行移動の避難を行った。</p>	<p>防火管理責任者 施設長 生活健康課長 を含む 施設職員 計29名 利用者(特養)10名 (デイ)26名</p>

指定介護老人福祉施設 小川ホーム
事業報告

運営概況

当施設では今年度の事業目標を「入所稼働率98%以上確保」と設定したが、実績としては95.61%（平成29年4月～平成30年3月）と約2.4%目標に届かなかった。その要因としては、入所者の重度虚弱化による入院者の増加及び入院の長期化、新規入所者の停滞がこの結果に現れている。

事実、重度虚弱化は顕著で、現入所者の介護度4及び5の占める割合は前年度対比で5%も増加、前々年度からは15%以上も増加している。また入院者数も8%増加し、入院者総数の4割以上が30日を超える入院をされている。この他、長期療養型入院に移行する方や施設での看取介護も倍増した。

このように入所者の状態が判然としない中、新規入所者の事前準備にも時間を要する。今年度新規入所した9割の方が自宅と老人保健施設から入所されているが、家族や退所先施設の事情、感染症診断や退院時の処方薬、当施設往診医との調整等、準備と調整が必要になるため、円滑な入所を進めるにはこれら事前準備を何処まで短縮できるかが課題である。

今後、特別養護老人ホームは更に入所者の重度化の一途を辿る。身体機能や認知機能の低下、摂食機能の低下により、事故や体調を崩す方も増える可能性がある。今居る入所者の方々がより長く施設で生活できるよう、次年度も健康面及び介護事故予防に対して力を入れ取り組んでいきたい。

1. 入所者の状況

(1) 月別入所実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
件数	73	75	75	76	75	72	73
延べ人数	2,034	2,123	2,203	2,285	2,157	2,171	2,248
1日当り	67.8	68.5	73.4	73.7	69.6	72.4	72.5
	11月	12月	1月	2月	3月	合計	※28年度
件数	73	74	73	71	73	885	887
延べ人数	2,104	2,137	2,095	1,860	2,045	25,462	25,812
1日当り	70.1	68.9	67.6	66.4	66.0	69.8	70.7

＝以下統計資料は平成30年3月31日現在の入所者を対象＝

(2) 介護保険者（市・区）別入所者

	措置制度からの継続		介護保険制度後の入所		計
	男性	女性	男性	女性	
小平市	0	0	14	54	68
他市区	0	0	0	4	4
計	0	0	14	58	72

(3) 入所理由

	男性		女性		計	
	主たる理由	従たる理由	主たる理由	従たる理由	主たる理由	従たる理由
身体的	0	9	12	9	12	18
精神的	1	0	20	15	21	15
経済的	2	2	2	3	4	5
家庭的	11	3	23	31	34	34
住宅的	0	0	1	0	1	0
その他	0	0	0	0	0	0
計	14	14	58	58	72	72

(4) 入所前の状況

入所前の状況	男性	女性	計
措置継続（小川ホーム入所継続）	0 (0)	0 (0)	0 (0)
自宅から入所	2 (2)	24 (4)	26 (6)
老人保健施設から入所	4 (1)	23 (11)	27 (12)
老人福祉施設から入所	2 (0)	1 (0)	3 (0)
病院及び療養型から入所	4 (2)	6 (0)	10 (2)
その他入所（有料、グループホーム等）	2 (0)	4 (0)	6 (0)
計	14 (5)	58 (15)	72 (20)

※（ ）内は、今年度入所者数

(5) 年度入退所者数

	入所		計	退所		計
	男性	女性		男性	女性	
要介護3	0	4	4	0	2	2
要介護4	2	6	8	1	7	8
要介護5	3	4	7	4	7	11
その他	0	0	0	1	1	2
計	5	15	20	6	17	23

(6) 退所理由

理 由	男性	女性	計
家族引取り	0	0	0
他施入所	0	1	1
長期入院・療養型	4	3	7
施設内死亡	看取	4	5
	検死	1	1
救急搬送後死亡	0	2	2
入院後死亡	1	6	7
計	6	17	23

(7) 生活福祉受給状況

種 別	男性	女性	計
全面生活保護受給	0	0	0
医療費単独給付受給	2	4	6
計	2	4	6

(8) 要介護度等の状況

a. 要介護度の内訳

	措置制度継続		介護保険後入所		計	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性
要介護1	0	0	0	2	0	2
要介護2	0	0	0	5	0	5
要介護3	0	0	3	12	3	12
要介護4	0	0	7	24	7	24
要介護5	0	0	4	15	4	15
計	0	0	14	58	14	58
介護度平均	0	0	3.78	3.77	3.78	3.77
総員介護度平均	3.77					
介護度4・5の占める割合	69.44%					

b. 障害高齢者の日常生活自立度

障害自立度	状況	男性	女性	計
J1	生活自立	0	0	0
J2		0	4	4
A1	準寝たきり	1	13	14
A2		5	8	13
B1	寝たきり	1	10	11
B2		4	14	18
C1		2	7	9
C2		1	2	3
計		14	58	72

c. 認知症高齢者の日常生活自立度

認知症自立度	男性	女性	計
自立	0	2	2
I	1	0	1
II a	1	1	2
II b	0	12	12
III a	4	19	23
III b	4	13	17
IV	3	9	12
M	1	2	3
計	14	58	72

(9) 障害者手帳取得状況

種別	人数
1級	2
2級	4
その他の障害	8
手帳なし	58
計	72

(10) 年齢構成

年齢	男性	女性	計
65歳未満	0	0	0
65～69	0	0	0
70～74	2	1	3
75～79	3	4	7
80～84	4	9	13
85～89	1	16	17
90～94	2	19	21
95以上	2	9	11
計	14	58	72
平均年齢	83.7	88.6	87.7

2. 処遇の状況

【日常生活援助】

(1) 排泄 プライバシーの保全、尊厳を損なわない配慮をしながら援助

項目	日中			夜間		
	男	女	計	男	女	計
自立	0	9	9	0	10	10
トイレ誘導	8	33	41	0	5	5
ポータブル介助	0	0	0	0	4	4
尿・便器介助	0	0	0	0	0	0
オムツ	5	15	20	13	38	51
その他	1	1	2	1	1	2
計	14	58	72	14	58	72

さりげなく、暖かく、しかも注意深くプライバシーを守ることを重視し、個々にあった援助を行っている。日々の対応で尿、便意がある方をケースミーティングに取り上げ、自立へ移行するように、職員の意思統一を図り努めている。また、コストダウンも考え、数社の紙おむつサンプルを取り寄せ、品質と価格の検討も行いました。今後も常に良い方法を考慮していきたい。

(2) 更衣 残存機能と清潔保持に努めている。

項目	男	女	計
自立	0	10	10
一部介助	4	16	20
全介助	10	32	42
計	14	58	72

一部介助 衣類を準備し障害の程度に応じて介助する方
 全介助 疾患により自ら行えない方

(3) 洗面

項目	男	女	計
自立	0	14	14
一部介助	6	22	28
全介助	8	22	30
計	14	58	72

一部介助 洗面所に誘導し、タオルで拭ける方（声掛けを含む）
 全介助 タオルにて介助

(4) 口腔ケア 口腔清拭保持と状態観察

項目		男	女	計
自立		0	12	12
要 介 助	声かけ	1	7	8
	うがい	0	1	1
	義歯	3	9	12
	綿棒	0	1	1
	歯磨	8	21	29
	コットン	2	7	9
計		14	58	72

- 声かけ 声かけして歯ブラシに歯磨き粉をつけて促す
 洗 口 歯のない方はシンリング（すすぎ，うがい）を実施
 義 歯 職員が歯ブラシで洗浄，うがい介助，夜間はポリデント洗浄
 綿 棒 歯ぐきの弱い方，歯ブラシを痛がる方
 歯 磨 歯のある方で一部介助が必要な方
 ガーゼ ガーゼにて洗浄

(5) 入浴 清潔保持とともに全身の状態観察を行い、心理的に満たされた入浴を楽しんでいただけるよう実施している。

項目		男	女	計
自立		0	1	1
介 助	一部介助	7	31	38
	全介助	3	13	16
	清拭	0	2	2
	機械浴（ストレッチャー）	4	11	15
計		14	58	72

- 一部介助 洗う意欲はあるが不十分な方
 全介助 疾患により不十分な方
 （一部介助・全介助ともリフト浴利用者を含む）

清潔保持と心身のリラックスのため、月～土曜日の入浴日を設定して、利用者1名に対し週2回の入浴を実施している。入浴チェック表に基づき状況を把握し、ADLに合わせた入浴を実施し、個々の好みを尊重し、時間設定した対応をしてくている。

(6) いわゆる問題行動 安全確認のもとにできる限り規制せず、自由を尊重し変化の観察を行っている。

項目	男	女	計
徘徊	1	2	3
異食	2	2	4
暴力	0	5	5
暴言・大声	1	9	10
帰宅願望	0	8	8
不潔行為	0	7	7
訴え	2	13	15
収集	0	3	3
自傷行為	0	0	0
拒絶	0	6	6
夜間せん妄	0	5	5
計	6	60	66

(上記表では重複行動含む)

当ホームにおいては、「障害は個性」と捉え、日常生活介護にあたる際は「個性」と受けとめできる限り自由を尊重し、個人の流れに合わせた対応を行っている。しかし、声なき声をどう察知するかを今後の課題として行きたい。

(7) 食事 暖かい雰囲気できゅっくり食べられるよう配慮し提供している。

項目	男	女	計
自立	4	31	35
一部介助	6	11	17
全介助	3	11	14
経管栄養等	1	5	6
計	14	60	72

一部介助 スプーンや手づかみで口に運ぶが殆どこぼしてしまう方。

声かけして、口元にスプーンを持っていき、口をあけてもらう方。

全介助 食べる動作を忘れるなど、動作ができない方。

食事は健康を維持するための栄養、毎日の活力のエネルギー源である。また何よりも日常生活の楽しみのひとつとなっている。その人に合った食事、その人の好む食事を目標にしてきざみ食や、ミキサー食などの加工をする他、食器などの工夫も行っている。「セレクトの日」で、好みのメニューを選ぶなどして、行事などで変化のある食事を提供しています。又、厚生労働省が定める、管理栄養士の配置、適時適温及び食事時間等の基準を満たして提供している。

なお、「行事食メニュー」「食糧構成基準量と摂取量」は別記を参照。

(8) 移動・誘導 残存機能を活用し、個々に合った介助を行っている。

項目		男	女	計
自立	歩行	0	3	3
	シルバーカー歩行器	0	2	2
	車椅子	0	6	6
要 介 助	誘導	1	3	4
	誘導(杖)	0	0	0
	車椅子(一部介助)	2	2	4
	車椅子(全介助)	11	34	45
	歩行介助	0	8	8
計		14	58	72

自立歩行 声かけのみで目的地へ行ける
 誘導 声かけし、職員と一緒に目的地まで行ける
 車椅子一部介助 移動のみの介助で、声かけで目的地まで行ける
 車椅子全介助 移動し、職員と一緒に目的地まで介助

【健康状況】

(1) 定期診察状況 ※診察のみ(診察処方)とで分けてカウントしている。

項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
内科	66 (101)	69 (106)	86 (118)	74 (118)	86 (110)	72 (125)	73 (116)
整形外科	14 (12)	17 (14)	15 (12)	13 (12)	15 (12)	14 (12)	13 (12)
精神科	29 (26)	28 (25)	29 (22)	32 (28)	31 (27)	32 (29)	31 (27)
項目	11月	12月	1月	2月	3月	合計	29年度 総数
内科	70 (129)	69 (114)	66 (107)	66 (109)	72 (88)	869 (1341)	2210
整形外科	13 (12)	10 (10)	12 (10)	12 (10)	11 (10)	228 (138)	366
精神科	31 (28)	28 (24)	28 (24)	26 (22)	25 (19)	350 (301)	651

(2) 健康診断状況とインフルエンザ予防接種・肺炎球菌ワクチン接種

- ※ 定期健康診断は誕生月に1回実施
- ※ インフルエンザ予防接種は、利用者全員に希望を伺う(入院中接種者除く)。希望者には南台病院下山医師による接種を実施。
 - 季節型インフルエンザ接種者 65名
 - 肺炎球菌ワクチン接種者 9名

(3) 外来受診状況

診療科	内科		外科		整形外科		皮膚科		眼科	
性別	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
件数	55	206	0	1	8	33	3	29	0	15
診療科	耳鼻科		脳神経外科		泌尿器科		精神科		救急	
性別	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
件数	0	0	2	9	10	5	2	5	0	7
診療科	形成外科		その他							
性別	男	女	男	女						
件数	0	1	0	5						

(4) 受診先医療機関(外部往診を含む)

医療機関名	件数	医療機関名	件数	医療機関名	件数	医療機関名	件数
南台病院	294	一橋病院	20	東大和病院	3	公立昭和病院	2
パール歯科 (往診)	645	立川災害 医療センター	3	西東京中央 総合病院	4	新山手病院	2
緑風荘病院	22	あかしあ脳外科	4	久米川病院	3	浅谷眼科	13
その他	9					計 1037 件	

(5) 入院期間

日数	0~7	8~14	15~30	31~90	90~	合計
男	2	2	2	3	1	10
女	8	2	10	16	0	36
計	10	4	12	19	1	46

(6) 入院患者病名

肺炎(25人)、心不全(4人)、ほうかしきえん蜂窩織炎(3人)、気管支炎、逆流性食道炎、腎盂腎炎、急性胆嚢炎、骨盤骨折、左大腿部転子部骨折、右股挫傷、胸水、尿毒症、低栄養、くも膜下出血、敗血症、喘息、腸閉塞、肝機能障害

【行事】

(1) 実施行事

実施月日	行事名	内容	実施場所
5月4~6日	菖蒲湯	浴槽に菖蒲を浮かべ日本古来の風習を楽しむ。	ホーム内

5月14日	母の日	職員お手製メッセージカードと写真、カーネーションを贈呈。	ホーム内
6月11日	手品ショー	手品師のパフォーマンスを楽しむ	ホーム内
6月18日	運動会 父の日	御家族と共に体を動かし勝敗を競う。花と職員お手製のメッセージカードを贈呈。	ホーム内
7月1～7日	七夕	笹に願を込めて短冊を飾る。	ホーム内
7月13～16日	盆供養	祭壇を飾り、迎え火・送り火を焚き供養する。	1階玄関
7月30日	コーラス	愛子会による昔懐かしい歌を楽しむ。	ホーム内
8月24日	ビアガーデン (夏祭り)	夏の暑さを吹き飛ばす行事として屋上に数々の屋台を出店し、御家族と共に楽しむ。	ホーム屋上
9月17日	敬老会	敬老の日をセレモニーや祝い膳などでお祝いする。	ホーム内
10月25日	秋を楽しむ	秋が旬の秋刀魚や芋をメインに調理して味わう。	ホーム駐車場
12月21～23日	ゆず湯	冬至にゆず湯に入り、健康を願う。	ホーム内
12月17日	クリスマス 年忘れ会	無事に一年を終え、御家族と共に宴会を楽しむ。	ホーム内
1月1日	新年祝賀会	元旦をおせち料理で祝い、羽子板等の正月遊びを楽しむ。利用者・職員が作成した絵馬を飾り祈願する。	ホーム内
1月2日	初釜	茶を嗜みながら新しい年を祝う。	ホーム内
2月4日	節分	職員が鬼に扮して豆まきで福を呼ぶ。	ホーム内
3月3日	ひな祭り	雛人形を飾り、記念写真を撮る。ひな祭りにちなんだ料理を食す。	ホーム内

※ 4月に予定していた花見は、インフルエンザ蔓延のため中止となる。

(2) 定例行事

- 利用者懇談会 毎月利用者の意見や要望を伺うと共に連絡の場として実施している。
- クラブ活動 書道・華道・料理を実施し、ボランティアによるアロマハンドトリートメント・リフレクソロジー・ハーモニカ・朗読の会・お茶の会・各種楽器演奏を実施している。多くのボランティアのお力添えで行うことができた。
- 理容・美容 毎月理容1回、美容2回地域の理容師により実施している。
- 嗜好品購入 生活協同組合「コープみらい」のカタログから、お菓子などの嗜好品を利用者が選び、配達を受けている。

【日用品支給状況】

日常生活に必要な日用品を支給しました。前年度のように定期的に支給するのではなく、必要に応じて、支給を行っている。

日用品支給品目：ティッシュ・歯ブラシ・ウェットティッシュ・歯磨き粉・ポリデント・シャンプー・ボディーソープ・洗顔ウォーム 他 各種A・B・Cセット

3. 研修生・ボランティアの受け入れと地域福祉

(1) 研修生の受け入れ

学校名	日数	延べ人数	研修（実習）目的
武蔵野美術大学	20	96	教員実習に伴う介護体験
白梅学園大学	80	139	介護実習
東京医療保健大学	6	6	看護実習
日商簿記三鷹福祉専門学校	5	10	介護福祉士取得実習
小平市立第五中学校	4	16	体験学習
東大和市立第三中学校	1	4	体験学習
小平市立第二中学校	4	12	体験学習

(2) ボランティアの受け入れ状況

グループ名	内容
寿々の会	衣類・タオルたたみ・話し相手・行事など
グループ宙	衣類・タオルたたみ・散歩・行事など
すずめの会	紙芝居・指人形・読み聴かせなど
あじさいの会	話し相手（第2火）
愛子会	キーボードを演奏し、テンポの良い振付で、懐メロや唱歌を歌って下さる。（年3～4回実施）
個人	クラブ活動・話し相手・おやつ食事介助・そうじ・歌・ハーモニカ・理容・美容・買い物・お茶・絵手紙・書道・華道等

施設の状況を説明し理解を求め、日常の業務を直接的、間接的に手伝って頂き大きな力になっている。積極的にボランティアを受け入れることで利用者の生活が拡大している。

(3) 地域福祉

学校名	内容
たかの台幼稚園	園児達が来園し歌や手遊びを披露し交流をする。
小平市立第十三小学校	小学校に出向き、学生と給食を食べながら交流する。

福祉サービスを必要とする人たちが地域社会を構成する一員として日常生活を営み、社会、経済、文化に限らずあらゆる分野の活動に参加する機会を得ることができるよう努めている。

4. 各係

(1) 排泄係

利用者の身体状況に合った排泄用具の選定や介助方法、オムツ類の仕組みや正しい使用方法、清潔保持のための陰洗方法等、研修を通し理解を深め、不快や苦痛を与えないケアについて取組を行った。またオムツ経費5%削減については残念ながら達成できなかったが、自立した排泄を目指し、トイレ誘導や時間枠の変更等を行い、取組むことができた。

今後は、排泄係の取組をプロセスから職員に積極的に働きかけ、一人ひとりが利用者の身体状況を深く理解し、ケアの統一と技術向上を図る。

(2) 入浴係

身体状況にあった入浴方法を都度検討し、安全で負担のない入浴を実施した。また入浴拒む方に対して、統一したアプローチ方法には課題が残る。次年度も引き続き、本人の希望に添えるよう入浴方法を検討・統一したケアを実施すると共に、福祉用具を積極的に活用し、スキンケアについても改善できる様に取り組んでいきたい。

(3) 食事係

「健康維持は食事から」をモットーに、利用者の身体機能の変化をいち早く捉え、食事形態や姿勢、摂取方法等について検討・見直しを行い、食べる楽しさと意欲の持続ができるように努めた。今後は食事量のみならず、一日の水分摂取についてもトータル的に考え、引き続き摂食困難な方への支援と職員の介助技術向上に力を入れ、取り組んでいく。

(4) ケアプラン・機能訓練係

施設の中でも、その人らしい生活が送れるよう本人のニーズを可能な限り取り入れた介護計画の検討を行った。また定期的に勉強会を開催し、職員に対して統一した指導ができるよう、介護支援専門員のスキルアップも目指した。

今後は介護支援専門員を主に、利用者担当職員と協働しながら素案を作成し、各職員へ計画内容の周知徹底と管理に力を入れていく。

(5) 安全環境係

年間事故件数100件減を目指し、事故に対する対策の周知徹底と振り返りを通し、事故を無くしていく取り組みを行った結果、その目標に近い成果を上げることができた。今後は予防対策に力を入れ、職員一人ひとりの危険予知能力の向上を目指して研修を行う他、年間事故統計で浮彫となった事故多発時間と場所に対する体制整備に取り組んでいく。また設備や備品等の管理を行い、環境面でも予防に努める。

(6) ボランティア係

係としては地域交流会等に積極的に参加し、今年度は個人6名新規ボランティアの方と一緒に活動することができた。今後も利用者の余暇活動の充実を目標に、今いるボランティアの方々の要望に答えながら、ボランティア感謝会を企画し、長く活動して頂けるよう支援していきたい。

(7) 実習生係

人と接する事の楽しさや介護の魅力を学生に伝えるため、実習生一人ひとりに時間

をかけて教える事ができた。特に実習では利用者とのコミュニケーションを多く取り、知ることの重要性を見つけてもらえるよう取り組んだ。また介護とは違った分野の学生においては、認知症について座学講座を開き理解を深め、自分がその方に出来ることを考えてもらった。次年度も学生自身が介護の楽しさや、やりがいを見出していけるような指導を行い、介護の魅力と伝えていきたい。

(8) サービスマナー係

高齢者虐待防止の観点から、自分の特性や傾向を自己覚知することや虐待の芽チェックリスト（東京保健福祉保健財団高齢者権利擁護支援センター作成）を活用し、研修会を開催。「利用者にとってその行動や言動は適切であるのか」について考えてもらい、利用者に適切なサービスが提供できるよう職員教育に努めてきた。

次年度も職員として相応しい接遇を身に付け、ケアの質を向上できるよう職員教育に努める。

※ ショートステイ係は、短期入所生活介護事業報告欄を参照。

5. 栄養、給食関係

給与栄養基準量と摂取量

給与栄養基準量	給与栄養量	
	基準量	摂取量
エネルギー (kcal)	1500	1519
たんぱく質 (g)	58.0	57.7
脂質 (g)	35.0	34.8
カルシウム (mg)	659	644
鉄 (mg)	6.2	8.0
ビタミンA (μg)	679	707
ビタミンB1 (mg)	0.95	0.78
ビタミンB2 (mg)	1.14	0.84
ナイアシン (mg)	10.5	12.2
ビタミンC (mg)	100	95
食塩相当量 (g)	7.2以下	7.2
食物繊維 (g)	17.4	13.7
炭水化物エネルギー比 (%)	63.5	63.8
脂肪エネルギー比 (%)	21	21
蛋白質エネルギー比 (%)	15.5	15.2

給与栄養基準量		基準栄養量に対する 給与摂取量の比率
エネルギー	1500 kcal	101%
タンパク質	58 g	99%
脂質	35 g	100%

(平成30年3月分)

行事食メニュー (平成29年度)

月	日	行事	献立
4	1	桜祭り	桜ご飯、清汁、揚げ鶏のみぞれかけ、新じゃがの土佐煮、小松菜のごま和え
	5	握り寿司の日	握り寿司、干瓢巻き、清汁、かぶの海老あん、小松菜の磯和え
	6	赤飯の日	赤飯、味噌汁、白身魚の揚げだし、かぼちゃの甘辛煮、浅漬け
	10	郷土料理の日	～沖縄県～ ジュシー、味噌汁、フーチャンプルー、かぼちゃの含め煮、黒糖ムース
	16	お楽しみ献立	ご飯、清汁、刺身(まぐろ、甘海老、サーモン)、かぶのそぼろあん、菜の花サラダ
5	5	端午の節句	散らし寿司、清汁、炊き合せ、抹茶プリン ＜間食＞ 柏もち
	7	母の日	鯛めし、清汁、茶巾盛り合わせ、しめじと青菜の和え物 ＜間食＞ キャラメルケーキ
	11	お楽しみ献立	ターメリックライスの魚介モルネソースかけ、コンソメスープ、カリフラワーのアボガドソース、パパロア
	15	赤飯の日	赤飯、清汁、鮭の照り焼き、がんもの含め煮、酢の物
6	7	赤飯の日	赤飯、味噌汁、鮭の香味焼き、厚揚げと野菜のくず煮、浅漬け
	12	父の日	散らし寿司、清汁、なめこ豆腐、あじさいゼリー (間) どら焼き
	16	お楽しみ献立	ご飯、味噌汁、チキンカツ、炊き合わせ、みかんのフルーチェ
	18	運動会	＜お弁当＞ 太巻き、いなり寿司、から揚げ、えびフライ、マカロニグラタン、シューマイ、筑前煮、抹茶ようかん
	22	郷土料理の日	～福岡県～ かしわ飯、清汁、かれの明太マヨ焼き、がめ煮、漬物
7	3	郷土料理の日	～栃木県～ 五目飯、干瓢の玉子とじ(汁物)、焼き餃子、オクラの湯葉和え
	7	七夕	三色そうめん、天ぷら、豆腐の蟹あんかけ、星ゼリー

	13	お楽しみ献立	祭り寿司、冷しそうめん汁、冬瓜のかにあんかけ、 柚子葛まんじゅう
	20	赤飯の日	赤飯、豚汁、ブリの照り焼き、里芋の煮付け、 海老と三つ葉のみぞれ和え
	25	土用丑の日	うな丼、清汁、夏野菜の炊き合わせ、小海老の酢の物
8	11	郷土料理の日	～山形県～ ご飯、芋煮汁、枝豆入りハンバーグの甘辛煮、冷や汁、 だし
	14	お楽しみ献立	枝豆と茗荷の生姜ご飯、清汁、フライ盛り合わせ、 冬瓜の冷やし葛あん、抹茶水まんじゅう
	15	終戦の日	さつま芋ご飯、すいとん、魚の煮付け、 角天の炊き合わせ、しその実和え
	24	赤飯の日	赤飯、味噌汁、銀だらの西京焼き、炊き合わせ、胡瓜の物
	24	ビアガーデン	やきそば、お好み焼、焼き鳥、もつ煮、ソフトクリーム、 ビール、ジュース、流しそうめん
9	17	敬老の日	<松花堂弁当>赤飯、お吸い物（かまぼこ、三つ葉）前菜 （青菜のきのこ和え、菊花と長芋の酢の物、蟹の重ね蒸し、 厚焼き玉子、甘味（寿ねりきり）炊き合わせ（六角里芋、 亀さつま芋、鶴人参、南瓜、魚河岸揚げ、絹さや）、焼き物 （鶏肉の野菜巻き）天ぷら抹茶塩添え（舞茸、ピーマン、 海老）
	21	お楽しみ献立	五目寿司、きのこ汁、茄子の肉みそがけ、きなこプリン
	25	郷土料理の日	～群馬県～ 釜めし、しこね汁、みそ田楽、白和え
10	6	赤飯の日	赤飯、けんちん汁、鮭の幽庵焼き、炊き合わせ、オレンジ
	11	郷土料理の日	～大分県～ ひじきご飯、味噌汁、とり天、筑前煮、酒まんじゅう
	25	お楽しみ献立	山菜ご飯、焼きさんま、かぼちゃのいところ煮、ほうれん草と じゃこの炒め
11	1	赤飯の日	赤飯、味噌汁、鱈の粕漬け焼、かぶと鶏肉の煮込み、 かに風味和え
	2	郷土料理の日	～京都府～ 大根菜飯、味噌汁、鮭の湯葉あんかけ、炊いたん、 千枚漬け
	15	握り寿司の日	握り寿司、干瓢巻き、清汁、豆腐の海老あん、 ピーナッツ和え
	19	お楽しみ献立	ねぎとろ丼、清汁、厚揚げの五目煮、春菊と菊花のお浸し
12	7	郷土料理の日	～東京都～ 深川丼、清汁、揚げ出豆腐、小松菜の磯和え
	14	赤飯の日	赤飯、清汁、鱈の西京焼き、じゃが芋煮、風味和え

	17	年忘れ会	クリスマス弁当：太巻き、サラダ巻、サーモンの握り、チキンのたらこソース、海老とブロッコリーのフリッター、さつま芋のツリーサラダ、浅漬け、一口ロールケーキ コーンかき玉スープ
	25	クリスマス	洋風ピラフ、コンソメスープ、シーフードのクリーム煮、鴨と卵のサラダ、ホワイトチョコムース
	31	年越しそば	ご飯、うなぎの蒲焼き、炊き合わせ、果物（りんご）、一口年越しそば、
1	1	正月	赤飯、お吸い物、おせち料理 一の重：伊達巻、紅白蒲鉾、黒豆、数の子、栗きんとん、松竹梅羊羹、昆布巻 二の重：甘鯛の西京焼き、鶏の八幡巻き、紅白なます、海老の艶煮、サヨリの大根巻き 三の重：煮しめ（松大根、ねじり梅人参、野菜しんじょう、椎茸、穂先たけのこ、こんにゃく、六角里芋、ふき、絹さや
	2	正月	お雑煮、鱈の西京焼、一口がんもの炊き合わせ、オクラの梅肉和え
	3	正月	ねぎとろ丼、野菜汁、揚げだし豆腐、千枚漬け
	7	七草粥	七草粥、厚焼き玉子、きんぴら蓮根
	8	郷土料理の日	～北海道～ ご飯、かしわぬき、鮭のチャンチャン焼き、かぼちゃしるこ、昆布和え
	12	赤飯	赤飯、清汁、白身魚のかぶら蒸し、茄子のそばろあん、菜の花のお浸し
	29	お楽しみ献立	すき焼き風煮、温泉たまご、わかめと菊花の酢の物
2	3 (昼)	節分	恵方巻き、豚汁、豆腐の五目野菜あん、菜の花の辛子和え <間食> 玉子ボーロ
	3 (夕)	節分	福ご飯、味噌汁、節分焼き、さつま芋のオレンジ煮、胡瓜とわかめの酢の物
	16	郷土料理の日	～静岡～ 桜海老のかき揚げ丼、味噌汁、あんかけ豆腐、黒糖まんじゅう
	23	握り寿司の日	握り寿司、かんぴょう巻き、清汁、かに豆腐、小松菜のピーナッツ和え
3	3	桃の節句	江戸散らし、清汁、炊き合せ、菜の花の辛子和え (間食) さくら餅
	13	赤飯の日	赤飯、きのこ汁、赤魚の煮付け、ひき肉と春雨の炒め物、胡麻和え
	22	お楽しみ献立	鯛めし、清汁、炊き合わせ、浅漬け

短期入所生活介護 事業報告

運営概況

当事業では、今年度の事業目標を「入所稼働率98%以上確保」と設定し取組んできたが、稼働率66.25%と、その目標を大幅に下回る結果となった。

その主な要因としては、利用予定者の体調不良が挙げられるが、地域における宿泊サービス事業所の充実も影響していることも考えられる。事実、平成29年11月から平成30年1月はインフルエンザの流行もあり利用キャンセルが相次いだ結果、その期間の平均利用者数は4.5人を下回っている。さらに当施設近隣には短期入所生活介護事業者が多数あり、競争が激化している。その結果として別期間においても、月平均5～6人しか利用されておらず、定員を満たすことができなかった。

そのため次年度は、利用者のニーズに応じていけるよう、新規利用者の拡大と受入体制を再構築し、利用者や家族の様々な要望聴き、利用しやすいサービスを整えていく必要がある。以上のことを、今年度の報告としたい。

1、29年度月別利用実績

項目	月												合計
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
件数 (件)	30	35	31	34	31	30	31	25	24	19	22	26	338
	37	39	34	36	41	38	35	34	34	37	33	34	432
延べ人数 (件)	145	171	142	168	164	187	162	115	135	125	193	229	1,936
	232	257	246	260	317	278	229	216	223	249	228	257	2,992
1日当たり (人)	4.8	5.5	4.7	5.4	5.3	6.2	5.2	3.8	4.4	4.0	6.9	7.4	5.3
	7.7	8.3	8.2	8.4	10.2	9.3	7.4	7.2	7.2	8.0	8.1	8.3	8.2
月平均稼働 率 (%)	62.5	68.9	59.1	67.7	66.1	77.9	65.3	47.9	54.4	50.4	86.1	92.3	66.3
	96.6	103.6	102.5	104.8	127.8	115.8	92.3	90.0	89.9	100.4	101.7	103.6	102.4

上段＝29年度 下段＝28年度

2、要介護度・年齢別利用者数

年齢	性	支援1	支援2	介護1	介護2	介護3	介護4	介護5	計	構成比%
～64	男									0.0
	女									
	計									
65～74	男				2				2	8.3
	女									
	計				2				2	
75～84	男									29.1
	女			2	2	1	2		7	
	計			2	2	1	2		7	
85～94	男			2					2	41.6
	女			1	1	6			8	
	計			3	1	6			10	
95～	男									20.8
	女				4		1		5	
	計				4		1		5	
計	男			2	2				4	100
	女			3	7	7	3		20	
	計			5	9	7	3		24	

(平成30年3月分)

小川ホーム デイサービスセンター
事業報告

運営概況

各事業目標に対して：

- ① 29年度も、法人の基本理念に沿って利用者の心を大切にし、健全で安らかな生活を支えようという考えに基づき行動することができていたと思う。
- ② 中重度者の割合は、平均31.70%となり加算が取れる割合になっている。しかし、看護師が現在2名で就労しているが、休みの日があり交代でも対応しきれないことがあり、特養看護師との連携を取り、対応している状態にある。来年度は、もう1名増員し、3名体制を整えていく必要があると考える。
- ③ 中重度の利用者が安心して過ごせる目配りができ、適切な判断で介護を提供できる技量については、ベテランから中堅職員は、もちろん、向上の余地はあるが、一定の対応が可能であると思う。今後、新人職員の資質向上を図る必要である。
- ④ 1日平均27名の目標に対して、24.4名となった。これは、長期ご利用者や利用日が多い方の退所が原因と考えられる。また、新規利用検討者に対する対応ができる生活相談員が、介護現場に入っていることで、よりスピーディーな対応ができなかったことも要因と考えられる。これについては、生活相談員として勤務できる日を少しでも多く確保するように、勤務表内容の変更を既に行っている。また施設側の支援体制を整え、常勤介護職員が社会福祉主事資格を取得できるよう、計画し着手している。今後、生活相談員の対応力の向上を図っていきたいと考える。一方、受診などでお休みされる利用者が、可能ならば他の日程で振替利用できるように案内する仕組みづくりや、ケアマネジャーへの空き情報の提供を検討していきたいと準備している。
- ⑤ 個別、またはグループの活動を通じて、楽しみや活力が得られることへの対策では、各職員が当日利用者の様子を察知し、レクリエーションのメニューを選択できるよう検討している。今後は、レクリエーションメニューも増やしていく必要があると考えている。
- ⑥ デイサービス事業に即した職員スキルアップについては、具体的な研修手法の改善対策ができなかったため、OJT、OFF-JTの両翼で研修の機会を強化し対応できるよう再考し企画したい。
- ⑦ 緩和型デイサービスについては、既に職員を増員して対応の計画に着手している。増員した職員の習熟も考慮しながら、進めて行く予定である。
- ⑧ キャリアパスについては、デイサービス主任交代後、研修計画に対する十分な結果が得られていない状況であろうかと認識しており、今後は主任が対現場比率を増強し対策にあたりたい。

1、月別実績

	内容/月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
参加数	予防	112	131	129	126	129	129	127	121	113	109	114	128	1,468
	介護	510	551	546	522	541	494	511	523	490	478	465	543	6,174
	計	622	682	675	648	670	623	638	644	603	587	579	671	7,642
	(28年度計)	682	692	720	716	726	709	709	717	672	630	613	660	8,246
新規	予防	0	1	2	0	0	0	1	0	0	2	1	1	8
	介護	6	1	0	0	1	0	2	2	0	0	1	2	16
	計	7	2	2	0	1	0	3	2	0	2	2	3	24
廃止	予防	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	介護	1	1	3	2	3	2	2	1	0	2	1	5	23
	計	1	1	3	2	3	2	2	1	0	2	1	5	23
予防	運動機能向上	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	口腔機能向上	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	栄養改善	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	入浴(一般)	11	13	14	12	13	14	13	12	11	9	7	9	138
介護	機能訓練	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	口腔機能向上	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	栄養改善	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	入浴(一般)	210	225	202	189	202	178	197	202	189	198	189	215	2,396
	入浴(機械)	76	95	114	113	107	99	118	111	95	90	87	100	1,205

2、要介護度・年齢別利用者数

年齢	性	支援1	支援2	介護1	介護2	介護3	介護4	介護5	計	構成比%
～64	男									0.0
	女									
	計									
65～74	男				1				1	5.8
	女		1		2	1			4	
	計		1		3	1			5	
75～84	男			2		1	1		4	31.8
	女	3	4	5	5	2	3	1	23	
	計	3	4	7	5	3	4	1	27	

85～ 89	男			2	1	1			4	31.8
	女	4	3	6	4	1	2	3	23	
	計	4	3	8	5	2	2	3	27	
90～	男	1			1				2	30.6
	女	2	5	3	10	2	2		24	
	計	3	5	3	11	2	2		26	
計	男	1		4	3	2	1		11	100
	女	9	13	14	21	6	7	4	74	
	計	10	13	18	24	8	8	4	85	

(平成30年3月分)

3、移動方法別利用者数

		男	女	計
歩行	自力	7	54	61
	介助	3	6	9
車椅子	自力	0	4	4
	介助	1	10	11
計		11	74	85

(平成30年3月分)

4、地域別利用者数

地域名	男	女	計
小川町1	0	3	3
小川町2	0	0	0
小川西町	6	37	43
小川東町	3	17	20
栄町	1	0	1
上水本町	0	1	1
学園西町	0	4	4
学園東町	0	0	0

仲町	0	0	0
津田町	1	8	9
たかの台	0	0	0
東村山	0	3	3
東大和	0	1	1
計	11	74	85

(平成30年3月分)

行事

行事名	縁日横丁(暑気払い)
日程	8月7～12日(すいか割り)
場所	活動室
参加人数	204名(延べ利用者、職員)
行事名	縁日横丁(暑気払い)
日程	8月14日～19日(かき氷)
場所	活動室
参加人数	204名(延べ利用者、職員)
行事名	夏祭り(ビアガーデン)
日程	8月24日
場所	デイサービス活動室
参加人数	利用者21名 家族10名
行事名	忘年会
日程	12月22～28日
場所	小川ホーム活動室
参加人数	217名(延べ利用者、職員)
行事名	初詣
日程	1月8～13日
場所	小平神明宮
参加人数	31名

小川ホーム ホームヘルプサービス
事業報告

運営概況

今年度の事業目標「稼働時間月1,400時間以上実施」を設定したが、力足りずに（平均1,304時間）前年度と同じく達成できなかった。

その主な原因としては慢性的な人材不足のために、新規依頼が来ても内容や回数、時間などにより受けられないことがあり、この一年間で受け付けた新規は31件と前年度の約67%を下回った。特に人手の少ない土曜日、日曜日に困難な状況に追い込まれている。

そして今後も継続して「特定事業者加算Ⅰ」の加算を算定していくためには、重度（要介護4及び5、日常生活認知度Ⅲa以上）の利用者を多く受け入れていく必要がある。そのため今後も安定したより良いサービスを提供していくためには、人材確保に効果的な求人方法や安定した雇用形態など検討していく必要性を強く感じている。

週1回火曜日の午後5時より行われていた業務報告会は、毎日のメール連絡が定着したためとヘルパーからの要望もあり、今年度4月より回数を月2回に減らして経過を見てきた。その結果、定期開催は月2回（第2、第4又は第5火曜日）とし、そのほか必要時に随時開催することとした。

前年度より引き続き、30年度制度改定に伴い、要支援利用者の総合事業への移行に向け、準備して来たことについては大きな混乱もなく行えたと考えている。今後は総合事業（旧国基準・小平独自基準）への振り分けがどの程度になり、同時にどのくらいの減収につながるのかを見極めながら、小平独自基準にも十分対応していけるような人材確保に努めていく事が必要だと考えている。

平成30年4月から介護保険制度改定に伴い、重要事項説明書、訪問介護契約書、個人情報使用同意書の取り直しを順次行わなければならないため、職員や利用者への時間や手数の負担が増加している。

介護保険が施行されて18年、介護される側もする側も共に高齢化が進み、施設入所を希望されてもすぐには入れずに自宅で過ごされる方が増えて来ている状況の中、ますます訪問介護の役割が大きくなってきていることを実感している。

1、月別実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
件数	125	123	121	120	118	117	117
延べ人数	1,348	1,460	1,467	1,352	1,379	1,327	1,339
1日当り	44.9	47.1	48.9	43.6	44.5	44.2	43.2
	11月	12月	1月	2月	3月	合計	※28年度
件数	115	112	120	120	116	1,424	1,492
延べ人数	1,311	1,314	1,318	1,258	1,329	16,202	16,498
1日当り	43.7	42.4	42.5	44.9	42.9	44.4	45.2

2、要介護度・年齢別利用者数

年齢	性	事業 対象	支援 1	支援 2	介護 1	介護 2	介護 3	介護 4	介護 5	計	構成 比%
～64	男							1		1	1.7
	女			1						1	
	計			1				1		2	
65～ 74	男	1	1	2	3	2				9	13.8
	女			3		3	1			7	
	計	1	1	5	3	5	1			16	
75～ 84	男		1	3	5	1		1		11	42.3
	女	1	8	11	2	5	6	5		38	
	計	1	9	14	7	6	6	6		49	
85～ 89	男			1		2	1			4	26.7
	女		5	11	1	5	2		3	27	
	計		5	12	1	7	3		3	31	
90～	男			1	2					3	15.5
	女		2	3	6	3	1			15	
	計		2	4	8	3	1			18	
計	男	1	2	7	10	5	1	2		28	100
	女	1	15	29	9	16	10	5	3	88	
	計	2	17	36	19	21	11	7	3	116	

(平成30年3月分)

3、地域別利用者数

地域	男	女	計
小平市	28	88	116
他市	0	0	0
計	28	88	116

(平成30年3月分)

4、サービス内容別実績

サービス内容		件数	延人数	サービス 時間 (時間)
訪問型サービス Ⅰ	週1回 1回1時間程度	33	132	130.8
訪問型サービス Ⅱ	週2回 1回1時間程度	18	153	151.7
訪問型サービス Ⅲ	週3回以上 1回1時間程度	4	52	53.3
身体介護 1	30分未満	13	168	81.1
身体介護 2	30分以上1時間未満	14	87	82.3
身体介護 3	1時間以上1時間30分未満	2	28	41.2
身体介護 4	1時間30分以上2時間未満	0	0	0.0
身体1生活1	30分以上1時間未満	7	121	120.6
身体1生活2	1時間以上1時間30分未満	5	22	33.0
身体1生活3	1時間30分以上2時間未満	0	0	0.0
身体2生活1	1時間以上1時間30分未満	2	5	7.1
身体2生活2	1時間30分以上2時間未満	2	2	3.7
身体2生活3	2時間以上2時間30分未満	0	0	0.0
身体3生活1	1時間30分以上2時間未満	1	4	8.0
身体3生活2	2時間以上2時間30分未満	0	0	0.0
身体3生活3	2時間30分以上3時間未満	0	0	0.0
身体1夜	30分未満	1	9	4.3
身体2夜	30分以上1時間未満	0	0	0.0
身体1生活1夜	30分以上1時間未満	0	0	0.0
生活援助 2	30分以上1時間未満	16	130	78.9
生活援助 3	1時間以上1時間30分未満	47	412	415.5
生活援助2夜	30分以上1時間未満	2	4	2.5
生活援助3夜	1時間以上1時間30分未満	0	0	0.0
合 計		167	1,329	1,213.9

(平成30年3月分)

小川ホーム 介護計画センター
事業報告

運営概況

平成29年度は、ケアマネジャー8名の体制を維持し、1ヶ月のケアプラン担当件数は年度末には250件を超えた。新規受付人数は月に4人～13人（平均すると月に約8人）で、終了となった利用者は月に4人～13人（平均すると月に約7人）だった。自宅でお亡くなりになって終了、または病院に入院後にお亡くなりになって終了となった利用者を除けば、1番多いのは有料老人ホームへの入所、次いで特別養護老人ホームへの入所が終了事由となった。多くの利用者が住み慣れた自宅でその人らしく暮らし、最後の段階で施設への住み替えができた。月によって変動はあるが、平成29年度は終了となる利用者が比較的少なく、在宅での生活が安定して送れるように居宅支援ができた一年と言える。在宅での生活を支援する為には、適切な受診をするための連絡調整や入退院時の情報連携がスムーズに行くようにするなど、医療機関との連携が欠かせない。入院後7日以内に利用者の心身の状況や生活環境などの在宅での情報を医療機関に届け、スムーズに在宅復帰ができるよう情報連携促進に努めるなど、医師や訪問看護師、薬剤師や歯科医師、ヘルパー、PT、OTなど多職種が参加する在宅医療介護連携推進協議会主催の在宅ケアコラボ研修に参加し、在宅高齢者支援における知識と連携を深めた。

今年度からは、東京都介護支援専門員実務研修の実習者の受入れ（4名）を行った。主任介護支援専門員の指導の下、東京都の実習カリキュラムに基づき、居宅介護支援の現場でのケアマネジメントプロセスの経験を通じて、実践にあたっての留意点や今後の学習課題等を認識することができるような研修の機会を提供した。

研修については、一昨年度から始まった小平市のケアプラン点検事業『リ・アセスメント支援シート』に今年度も2名参加し、自立支援に資するケアマネジメントについて学んだ。今年度の研修で6名の介護支援専門員全員が指導を受けた。介護支援専門員更新の研修にも1名が受講し資格を継続し演習を含む過程を修得した。

その他の外部研修としては、小平市内のケアマネジャーの横のつながりや専門職としての技能を研鑽し合うことを目的とする『小平ケアマネ連絡会』の研修に参加した。

事業所内研修としては、毎週1回行っている計画センターの全体ミーティングで、ケアマネジメント技術の向上に努めた。

1. ケアプラン作成件数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
件数	238	235	236	244	250	248	255
内受託	1	1	1	1	1	1	2
月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	※28年度
件数	257	253	258	257	255	2,986	2,789
内受託	2	2	2	2	2	18	18

2. 要介護度別分類

年齢	性	支援1	支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
～59	男								
	女			1			1		2
	計			1			1		2
60～64	男						1		1
	女					1	1		2
	計					1	2		3
65～69	男			2	3				5
	女				2			1	3
	計			2	5			1	8
70～74	男			3	2	1	1	1	8
	女			6	5	4		2	17
	計			9	7	5	1	3	25
75～79	男			6	4	1			11
	女			5	5	1	5	1	17
	計			11	9	2	5	1	28
80～84	男			13	5	1	1	2	22
	女	1		17	10	6	3	2	39
	計	1		30	15	7	4	4	61
85～89	男			9	7	5	3		24
	女			17	15	4	2	3	41
	計			26	22	9	5	3	65
90～	男			2	6	1	2	1	12
	女		1	19	15	5	8	3	51
	計		1	21	21	6	10	4	63
合計	男			35	27	9	8	4	83
	女	1	1	65	52	21	20	12	172
	計	1	1	100	79	30	28	16	255

(平成30年3月分)

3. 地域別利用者数

地域	男	女	計
小平市	83	171	254
東村山市	0	1	1
計	83	172	255

(平成30年3月分)

小平市 地域包括支援センター 小川ホーム 事業報告

運営概況

平成29年度も地域包括支援センターの命題としては、地域作りが挙げられる。第二層の生活支援コーディネーターを中心に圏域内の地域作りを行ってきた。小平西ネット第一ブロック連絡会や小川西、津田の公民館の講座企画委員会、学園西町地区連絡会等の地域の様々な会議に参加し、①居場所②人材③情報・アクセス④活動の場、⑤社会参加の項目において地域の実態把握を行ってきた。活動の中で、住民主体サービスB通所型の「上水藤の木サロン」という新たな居場所立ち上げ支援に結びついている。

これも、介護予防見守りボランティア事業で実際に見守りボランティアに登録して頂いた73人が定期的な交流会で傾聴や介護予防体操、認知症の学習、防災の知識、障害者の疑似体験等の勉強会や学習会を通して生まれた、地域の絆が住民への意識も他人事から自分達の町という意識が少しずつ芽生え始めている表れでないかと思う。

今後は、地域の協議会を小さな単位で作し、住民通しの助け合いの中から地域作りをサポートしていく。その結果、住民の困り事から住民主体の生活支援サービスや居場所等の創設に繋げていく事が課題となっている。

介護予防日常生活支援・総合事業（以下総合事業とする）が始まって1年が経過した。生活支援体制整備事業・総合事業研究会にて、話し合いを重ねて総合事業の道筋をつけてきた。今年度は、地域包括ケア推進計画の作成する年となっている為、平成30年からの第7期計画（小平市の将来像）を見据えて制度の動きがあった。デイサービスやヘルプサービスにおいて、本格的に総合事業への移行していく上での過程について、話し合いを重ねてきた結果、総合事業の訪問型、通所型サービス共に旧国基準と小平独自基準に分けて対象者もそれぞれ分けてしていく方向性になり、30年度からは、より総合事業へのシフトを強くしていく事になった。その結果、今までの定額制から、平成30年度は1回単位に変更になっている。

プランにおいても、予防給付から総合事業へ利用者は完全移行となった年でもあった。通所型・訪問型共に、みなし事業への移行であったので、特別大きな混乱はなかった。ただし、住民型サービスBが圏域で2ヵ所開設した事で、事業対象者への認定を包括支援センターが申請から認定まで出していく事になり、初めての事でもあったので、利用者への説明や手続き（プラン作成）が一時的に集中した事もあり大変であった。

今後はより、適切なアセスメントを行う事によって、対象者に介護予防支援事業や総合事業（旧国基準・小平独自基準）へ分かれてご利用いただく必要がでてくる。また事業対象者においては、基本的に介護保険のサービスとは区別する形をとるようにして、介護予防講座や介護予防教室への参加、住民主体型サービスB型、地域でのサロンへの参加への促しがより鮮明になりつつある。

この様に住民主体型のサービスが徐々に出来つつあり、生活サポーター、介護予防リーダー、認知症支援リーダーの養成を一步一步進めてきた成果でもあろう。しかし、実際の活躍の場としては、まだまだ少ないため課題も残る。

包括的支援事業の中で特筆すべきは、地域ケア会議であろう。今年度のテーマとしては、認知症が挙げられる。高齢者が安心して生活できる地域作りの中で、「認知症の疑いのある

高齢者ドライバーに対して、「現状の困り事はどんな事か」をテーマとして地域型地域ケア会議を行った。参加機関も自治会等の地域関係者や民生委員、自動車教習所、警察署、認知症疾患医療センター等の多数の方に集まっていたき、話し合いを行った。高齢者から運転免許を取り上げる事が目的でなく、高齢者が安心して生活するには何が出来るか考える事が柱である事、免許を返納しても安心して生活できる条件整備の必要性も関係者で共有できた。

関連するところで、小平市で初めての試みである「認知症週間」を11/13～11/18の一週間で実施した。各地域包括支援センターで割り当てられた役割として、認知症サポーター養成講座の開催、認知症徘徊模擬訓練も行った。

各地域包括支援センターの行事関係で地域に発信しているものとして、認知症カフェ（おれんじカフェ小川）は毎月開催している。ここでは、認知症の方やその家族の交流に役立てて頂いている。（適宜、認知症家族支援会わかばの会にも参加して頂き協力してもらっている）特に認知症の方と一緒に作るおやつ作りは好評で、それぞれ各自の出来るところで共に行い最後に食し利用者や家族の笑顔が見られている。

サロンは毎週開催（認知症カフェ開催日以外）している。体操やアロマ、脳トレ、カラオケ等のメニューを中心にいき、特にカラオケは好評であり参加人数も多い。サロンにおいても、地域住民の憩いの場として定着してきた。このように、認知症カフェ（おれんじカフェ）やサロンにおいて、認知症支援リーダーや介護予防リーダー、ボランティアの方にも手伝って頂き、圏域内の地域作りをより一層進めてきた一年となった。

今後は、認知症支援リーダーや介護予防リーダーの方にも役割を担って頂き、活躍の場として、第二第三の認知症カフェやサロンを住民の方と一緒に関わりながら創設していければ、良いと考える。

その他、任意事業においては、介護給付費適正化事業（ケアマネ支援）がある。各居宅の主任ケアマネにも協力してもらい、リ・アセスメントシートによりケアプラン作成を学び、研修会を開催した。市内の全ケアマネに対して、一通り終える事ができた。

家族介護支援事業では、家族介護教室をいき、介護施設の基礎知識、介護者のストレス軽減、腰痛・膝痛予防の意味での健康ウォーキング講座を開催した。

認知症サポーター養成講座も定期的に行ってきた。地域住民はもとより、地域の事業所や医療機関（国立精神神経医療研究センター病院）まで行った。また、医療と介護との多職種連携事業（研修）も含めた、行政や地域との会議体は、27会議もあり、多くの時間を費やし連携を深めてきた。今後は、会議に参加する職員が同じで内容が類似している会議体は統合していき、包括業務の効率化も図っていく必要もある。

包括の機能強化を図ったことで、法人内部からの人事異動1名と、新たに1名の非常勤職員を雇用し、440件前後で推移するケアプラン数や毎月40件近い総合相談に対応していく事ができた。総合相談の主な相談内容は得に認知症、癌末期、精神疾患、多問題家族、ゴミ屋敷、権利擁護（虐待）等の相談が多く、担当するケアマネやサービスにつながるまでに時間を要しているケースも多く、行政や他機関との連携を今年度も数多く行ってきた。

次年度においても包括職員のスキルアップを更にしていきながら、小川ホームが中心となり、地域の中核機関として地域住民から必要不可欠な存在として機能出来るようにしていきたい。

1、 ケアプラン作成件数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
件数	433	455	478	442	447	446	401
内委託	70	74	73	59	70	63	62
月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	※28年度
件数	468	462	456	442	446	5,385	5,055
内委託	67	76	72	73	72	831	831

2、 要介護度分類

	～59歳		60～64		65～69		70～74		75～79		80～84		85～89		90～		合計		
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計
事業							1	1		6	3	7	2	6		3	6	23	29
支援1		2	1		1	1	6	12	6	14	7	36	13	44	4	20	38	129	167
支援2	1	1	2	1	8	6	6	6	11	17	21	56	21	58	6	29	76	174	250
合計	1	3	3	1	9	7	13	19	17	37	31	99	36	108	10	52	120	326	446

平成30年3月31日現在

3、 相談実績

相談件数 (件)		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間
	当月相談者数	171	183	160	186	170	172	141	198	161	169	179	209	2099
	当月内訳													
	新規相談者	36	44	36	40	27	27	32	43	32	34	48	43	442
	継続相談者	135	139	124	146	143	145	109	152	129	135	131	166	1654
相談内訳	自立支援サービス													
	給食サービス	1	0	1	2	2	3	3	3	4	4	7	9	43
	住宅改修	5	5	4	2	10	7	6	3	4	16	9	2	73
	福祉用具	7	2	11	4	8	4	8	1	4	10	9	3	71
	緊急通報・火災安全システム	1	0	1	0	0	2	0	0	2	0	0	0	6
	おむつ支給等事業	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1

	高齢者見守り事業	21	15	12	12	32	10	15	19	19	10	7	13	185
	その他自立支援サービス等	0	3	1	1	2	1	5	3	1	1	0	1	19
介護保険	施設サービス	7	10	10	19	9	11	14	13	6	13	12	10	134
	在宅サービス	57	72	74	82	71	61	40	71	54	70	77	81	810
	地域密着サービス	0	2	0	2	1	2	2	1	0	1	2	1	14
	ケアマネ・ケアプランの相談	11	19	10	14	22	22	14	23	21	28	29	27	240
	申請等の相談	36	36	38	46	42	35	31	49	35	51	44	44	487
介護予防・生活支援	訪問型サービス	10	14	15	6	7	20	18	6	6	5	8	3	118
	通所型サービス	24	9	18	23	15	18	20	17	6	12	16	5	183
一般介護予防事業	ADL・IADLに関する相談	2	7	8	5	6	7	6	7	3	8	2	5	66
	社会参加に関する相談	5	1	5	5	6	3	4	2	2	2	2	5	42
認知症に関する相談	症状・生活に関する相談	11	11	21	14	11	22	6	17	10	16	10	18	167
	受診・治療・服薬に関する相談	9	5	11	6	7	12	3	3	10	15	8	5	94
	上記以外の相談	0	2	3	3	0	2	1	4	3	4	1	2	24
権利擁護	地域福祉権利擁護	0	0	0	0	4	3	0	1	1	1	3	4	17
	成年後見	3	0	1	2	3	1	1	1	3	3	3	6	27
	高齢者虐待	0	1	0	2	1	0	1	1	1	0	0	0	7
	消費者相談	0	0	0	5	1	1	0	1	0	0	2	0	10
その他	苦情	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	3	1	5
	安否確認・緊急対応	2	3	2	6	3	11	5	1	6	5	2	14	60
	住環境に関する相談	7	3	3	7	4	4	1	4	1	5	0	13	52

生活困窮者に関する相談	0	0	0	1	1	2	1	1	3	1	3	6	23
緊急医療情報キットに関する相談	3	0	3	1	0	2	1	0	5	1	0	0	16
医療関係	14	17	9	11	20	21	23	20	13	25	8	26	207
他制度の相談	0	1	2	4	1	2	0	2	0	0	3	1	16
上記以外の相談	2	0	0	3	2	2	0	0	0	1	3	0	13

相談件数 (件)		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間	
予防給付	要支援1	予防ケアプラン作成	38	41	39	45	44	45	40	52	52	54	53	55	553
		予防ケアプラン作成委託	9	10	10	9	10	10	10	12	12	10	14	14	130
		ケアプラン作成委託事業者数 (3月31日現在の数)	14	14	10	7	8	8	10	11	9	11	13	13	10.6
	要支援2	予防ケアプラン作成	118	128	119	119	117	121	107	115	114	115	120	118	1183
		予防ケアプラン作成委託	31	33	34	18	28	28	24	26	28	27	24	23	324
		ケアプラン作成委託事業者数 (3月現在)	16	31	29	25	24	23	19	25	22	27	23	21	23.7
		セルフケアプラン作成件数	1	1	1	5	1	0	3	2	0	0	3	3	20
	介護予防日常生活支援事業	事業対象者	ケアプランA	34	40	39	41	39	38	29	28	36	33	28	30
ケアプランB			0	0	0	0	0	0	0	16	0	0	0	0	16
ケアプランC			0	0	15	6	0	0	0	0	0	0	0	0	21
総合事業ケアプラン作成・委託			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
総合事業作成委託事業者 (3月現在)			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要支援1		ケアプランA	84	84	87	85	87	88	83	90	90	81	86	85	1030
		ケアプランB	0	0	0	0	13	0	0	10	1	0	0	0	24
		ケアプランC	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6
		総合事業ケアプラン作成・委託	12	12	9	15	15	12	11	10	15	14	14	12	151
		総合事業作成委託事業者 (3月現在)	14	9	13	15	12	12	11	9	15	13	14	11	12.3

要支援2	ケアプランA	89	88	97	87	91	91	80	87	93	101	102	86	1092
	ケアプランB	0	0	0	0	18	0	0	19	0	0	0	0	37
	ケアプランC	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	総合事業ケアプラン作成・委託	18	19	20	17	17	13	17	19	20	22	21	23	226
	総合事業作成委託事業者（3月現在）	17	13	17	15	18	17	15	15	20	17	16	15	16.2
ケアマネ業務	事業対象者	42	24	18	40	10	5	26	19	16	12	13	14	239
	要支援1	219	197	157	251	234	206	247	256	235	248	252	236	2738
	要支援2	290	301	263	365	339	347	365	336	327	312	134	315	3694
	申請中・退院調整等	4	7	0	2	7	6	8	11	7	12	11	11	86
	サービス担当者会議・ケース会議	35	21	22	22	19	18	31	22	35	26	35	31	317
介護保険申請件数		51	52	45	39	56	40	43	60	53	63	69	117	688
事業対象者 基本チェックリスト実施		0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	0	2	5
実態把握に関する対応		0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	29	52	82
包括的・継続的ケアマネジメント事業	ケアプラン作成指導・個別指導・相談	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	1	0	3
	困難事例への指導助言	0	0	3	0	1	0	0	1	0	1	1	0	7
	サービス担当者会議・ケース会議	0	2	2	1	0	0	0	0	1	0	1	0	7
地域ケア会議	地域ケア会議 <個別ケース検討>	0	0	1	0	1	0	0	0	1	0	0	0	3
	地域ケア会議 <地域課題検討>	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1

この事業報告書は原本と相違ないことを証明します。

平成30年6月20日

東京都小平市小川西町2-35-2

社会福祉法人緑友会

理事長 菅野徹夫